



オークの孕み袋

壁尻の社

淫紋森人・アサ

6

2

5

MILK JERSEY
妄想パース

カード詳細



名前 にくべんき 肉便姫・ヴァンパイ

クラス ヴァンパイア タイプ -



進化前

必殺 守護

ファンファーレ 自分の場に調教中の吸血姫がある場合、それを破壊してPPを6回復。

ラストワード 孕み姫・ヴァンパイを手札に加える



進化

「あん♡ヴァンパイちゃんのお、ご主人様はあ、あんっ♡最強、ですしいっ♡」

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【肉便姫・ヴァンパイ】

ヴァンパイアの姫であり、幼い身体ながらも淫靡な魅力を備える彼女の名はヴァンパイ。

幼く自由奔放な性格ながらも高貴な血族である彼女は今、一人の【人間の男】に飼われていた。

その男は、容姿は褒められたものではなく特筆した力もない、なにかの魔術師である事以外はただただ人間だった。

そんな人間に高貴な血族の姫が従うはずはなかった。

だがその男は、彼女にある強力な魔術を仕掛けていたのだ。

【対象の常識を思い通りに変換する魔術】

催眠術に近いその魔術により、

「ヴァンパイアは人間に飼われる事でしか生きていけない種族であり、人間の精を食料とする」という常識を、彼女は植え付けられてしまっていた。

ふとしたきっかけで醒めてしまう魔術ではあるが、刷り込み続ける事によって、偽の常識が真実となる。

彼女は植え付けられた常識に従い、飼い主に股を開くのであった。

「んん……」

高貴なる血族の姫であり、ヴァンパイアである彼女は今、本来は他愛もない存在であるはずの人間の男に対して、大きく脚を開く屈辱的なポーズを自らしていた。

「どうしたんだい？アレが欲しいんだらう？」

「ちやんとおねだりするんだ。いつものように、ね」

「ん……わかつ……わかり、ました……」

ニヤついた顔を隠そうともしない男に対して、へりくだる彼女。

自らの常識を交換されてしまっている彼女は、自分がしている事に抵抗を感じつつも従ってしまう。

「い、偉大な人間様に飼っていたただく事でしか、生きる事のできない弱き種族の姫であるわたしにお情けをちようだ……くだ、さい」

「よく言えたね。それじゃあ……」褒美だ」

いつもの口上を言い終え、服従のポーズをする彼女の姿に、男は下卑た笑みを浮かべると、褒美を与えるべく彼女に近づいていった。

「あっ……んっ」

眼前に出された男のモノを見て、彼女の様子が変わっていく。呼吸が荒くなり、視線は男のモノを一点に見つめている。下着にはいやらしいシミすらついていた。

それはすでに彼女の調教が進んでいる証だった。

「はあっ、はあっ、んんうう」

飼い主の許可がなくて手を出すこともできず、餌のお預けをくらった雌犬のように、息を荒げる彼女。

「はやくお○んぽ……ちようた……ください」

「節操のない雌犬ちゃんだ……」【よし】

内心ではほくそ笑みながらも、呆れた顔を浮かべた男は許可を出す。

「んっ！ちゆるっ、ちゅぼっ。じゆるるるっ」
許可がでてすぐにむしやぶりつく彼女。植え付けられた常識では生きる糧を頂くための行為でもあるため、必死さが見て取れる。

「君はこうしないと生きていけない弱い種族なんだ
こうして施しを貰えることをありがたく思うんだ」

「ちゆるるるっ、ふあい…ありがとうございませう…」
奉仕に必死になりながらも、感謝をのべる彼女。
何度も理解させる事で、偽の常識を深くまで定着
させていく。

「そろそろ出すぞ、全で飲み干すんだ…こぼすなよ」
男がそう言い、彼女にとって待ちに待った瞬間が
おとずれた。

「ぶあっ♡はあ、はあ……んんっ……ふうっ」
やがて射精が止まり、男のモノが糸を引きながら
離れていく。
彼女の表情は生きる糧を貰えた安心感からか先ほど
までの必死さは薄れ弛緩していた。

「おい、何か言う事があるんじゃないのか?」

「あっ!、ありがと……ありがとうございしました」
男の言葉に身体をびくつとさせ、糧を頂いた事
への感謝をのべる彼女。

「さて、餌を与えてやったんだ……後は何をすべきな
のか分かってるな?」

「う、うん……わかってるよ……んんっ、わかって……ます
身体を使ってごほりしすればいいんだよ……ですよ
ね?」

飼い主に奉仕すべく、彼女は男の目の前で服を
脱ぎ始めた。

「うん……」

いつでもすぐに脱げるように改造された服がはらりと落ち、装飾だけを付けたある意味全裸より恥ずかしい姿になる彼女。
彼女にとっては常識的な事だとは思いつつも、羞恥心は消えない。

餌を頂いた後は、自らの身体を使って奉仕をしなければならぬ。
そんな歪んだ常識に従って、彼女は幼くも淫猥な裸身を晒す。

そんな彼女を見ながら、男は仰向けで横になる。

「さあ、跨って腰を振るんだ、自分からな」

「うん、うん……失礼、します」



「あつ♡はいっつてくるうう…ふあああ♡♡」

男のモノの上から腰を下るし、自らの膣内に受け入れていく。

既に調教されたそこはそれだけでたっぷりと愛液を垂らし、溢れさせた。

「自分だけ気持ちよくなつてどうする！雌犬が！」

「うう…ごめんなさ…もうしわけいざいません！
ご主人さまあら」

飼い主である男に気持ちよくなつてもらうために腰を動かす彼女。ぐちゅぐちゅと卑猥な音が響き、やがて男の限界が近づく。

「出すぞ…ありがたく受け取れっ！」



彼女を墮とすための調教が本格的に始まった。

毎日のご奉仕は勿論、一日中挿入したまま過ごしたり服を着ることを禁止されたりもした。

また彼女のように調教されてしまった他のヴァンパイアの女と一緒に毎日のように乱交パーティーが開催された。

こうした調教の日々により、彼女はもたらされる
快楽と飼い主である男に依存していった。

「はぁ♡はぁ♡いしゅじんさまぁ……♡」

彼女はいつものように最愛のご主人様の前で服従のポーズをとる。そのお腹は大きく膨らんでおり妊娠しているのは明らかだった。

自分のような弱い種族が人間様に飼って頂けるのは至上の喜びであるという認識を完全に刷り込まれてしまった彼女は、飼い主である男に奉仕する事ができる喜びに身体を震わせ、愛液を溢れさせる。

「いしゅじんさまのお○んぽだいすき♡」

「くくくっ、立派な雌犬に変わったものだ……」



「お〇んぽきたあ♡♡♡しゅじんさまのお〇んぽ
とつても大きくてもうはなれられないの♡♡♡」
最初の時のようなたどたどしさはそこにはなく、
ご主人様に対する愛情ともたらされる快楽に溺れ
きっていた。

もう彼女に魔術は掛かっている。

「けんぞくう…わたし…しゅじんさまに飼って
もらって、ほんとうだ…しあわせだよお…♡」

最愛のご主人様につけて頂いた乳首ピアスが光
を反射して輝いた。



肉便姫として堕ちてしまったヴァンパイは自身を飼って頂ける素敵なご主人様に対して、奉仕できる幸せを噛みしめながら日々を過ごす。

素敵なご主人様を他の人にもわかってもらおうとヴァンパイの現状を知らない他の女達が彼女の手によって誘い込まれ、新たな犠牲者となった。

植え付けられた偽の常識から始まった事だが、彼女にとってはそんな事は関係ない。

快楽と最愛のご主人様の存在だけが、彼女にとって唯一の真実なのだから。

6

肉便姫・ヴァンパイ



3

7

カード詳細

2

雌豚調教



名前 めすぶた ちょうきょう
雌豚調教

クラス ニュートラル

タイプ -

スペル

相手の性別♀フォロワーを **雌豚** に変身させる

エンハンス 4 相手の性別♀フォロワーを **開発済の雌豚** に変身させる。

エンハンス 6 相手の性別♀フォロワーを **調教済の雌豚** に変身させる。

エンハンス 8 相手の性別♀フォロワーを **従順な雌豚** に変身させる。

エンハンス 10 相手のリーダーを **雌豚** に調教して、このバトルに勝利する。

クールな顔は表の顔、あさましく媚びて尻を振るのは裏の顔。

豚のように鳴いて醜態を晒す。それすらも快感の時間。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【雌豚調教】

街を外れて、深い森の中に小さな村がある。農業よりも畜産が盛んであるという事以外は、これといって特徴がない村だった。

しかし、歴史の遺物である古い遺跡や歴史的資料が豊富にある地域に近いという事で、その村を訪れる人物は少なくはなかった。

「ここが噂の村ね……」

また一人この村を訪れる人物がいた。

彼女の名前はイザベル。

宮廷魔術師を務めるほど優秀な魔術師である彼女だが、婚約者を失くし禁忌の魔術に手を染めた。

禁忌の魔術の知識が目的であるということ

伏せた上で同僚でも特に優秀な女魔術師に頼ったところ、この村の事を教えられたのだ。

村に到着してすぐ歓迎をうけるイザベル。

最初は警戒をしていたイザベルだが、いかにも田舎者な村人達を見て警戒を解く。

遺跡に関して話を聞きたいと村長に申し出ると、でっぷりと太った男を紹介され、その者の家で話を聞かせてもらおう事になった。

「それで何をききたいんだべさ」

出された飲み物で口を潤してから本題を切り出す彼女。

「この村の近くの遺跡に、古代の魔術の知識が、眠って……いる……とき……い……て……」

喋っている途中で睡魔に襲われ、意識を失ってしまふ彼女だった。

「ん……んむ……?」

(……ここは? 一体何が……)

ぼんやりと目を覚ました彼女。意識がはつきりとせず自分がどういう状況なのか把握することができない。

(たしか村の男の話を聞いて……っっ……!)

自分がなにかを飲まされて眠ってしまった事を思い出し意識を覚醒させる彼女。それと同時に自分が今どういう状態なのかに気づく。

「んんっ!?!んむう!んっ!ふぐうっ!」

身体を拘束され喋る事も動くことができない。目隠しをされているが、あまり広くない空間だろう。さらに地面に直接あたる肌の感触から自分が裸同然の姿であるということが分かった。

(どういうつもり!許さないわ……!)

羞恥心、不安、怒り、様々な感情が渦巻く彼女。

やがて人が近づいてくる気配を感じた。

「大人しくしているだあか? ひさしぶりの上物だけん、気合もはいるだあよ。へへっ」

先ほどの太った男の声が聞こえる。

「ふむうっ!んむうっ!」

(ごいつ……!今すぐ解放しなさい!)

「立派な雌豚に仕上げるには……まず、見た目からだべなあ、ほれっ」

「ふ……ふぐぐつ……んぐぐつ……」
膣内に遠慮なく中出しされ、身体を痙攣させながら茫然自失となる彼女。
さしもの彼女でも耐えられず、半ば意識を手放していた。

「ふう……良かったただあよ……。これからたっぷり舐けて、立派な雌豚にするだよ」

そういつて男は鼻輪をとりだすと、彼女の鼻に取りつける。

一瞬身体をびくつとさせるも、呻くだけで特に反応は示さない。

その姿を見た男は満足気に「豚小屋」を後にした。

「ふっ……ふっ……」

彼女が豚小屋に囚われてから一月が過ぎた。毎日のように犯され続けた彼女の精神は消耗し、身体は順調に開発されていった。しかし、そんなイザベルの毎日に変化が起きていた。いつもは朝昼晩と時間になると男がきて、食事を与えると同時に彼女を犯して帰るのだが、最近の様子を見に来るだけで彼女に手を出さなくなったのだ。

今日も彼女の下に訪れた男。

イザベルの背後に立つと、身体に触れてもいないのに彼女の秘部から愛液が溢れ始め、無意識にお尻が揺れ始める。

その姿を見て男は満足した顔で、手を出さずにその場去っていく。そういつた日々が続いている。

（はあ……はあ……なん、で……一体何を考えているの……）
彼女とて犯されたい訳ではない。だが意思に反して、開発されてしまったその身体は欲求不満を訴えていた。

拘束された状態では自慰行為をして解消する事もできない。

そんな日々がさらに一か月以上も続き、彼女は情欲でおかしくなっていた。

（はあ……はあ……おちんぽ……だ、だめ……どうにかしてあいつから逃げて、おちんぽしなきゃ……ち、ちんぽがう！でも、おちんぽ……おちんぽ……）

そしてそのまま手を出されないままさらに時間が過ぎた。

そして今日も男が様子を見にやってくる。

「ふうっ♡ふうっ♡んむうっ♡」

彼女の様子がいつもと違う事を察した男は彼女の目と口の拘束を解いた。

「んむっ、ぶはっ、……おちんぽ……おちんぽちようだいっ！もう、我慢できない、耐えられないのおっ」

はしたなくお尻を振りながら懇願するイザベル。

「んん？口の利き方がなっていないべなあ、お前さんは雌豚、家畜なんだべ。それを認めて一生家畜として生きるってえ誓うなら……考えてやるべ」

普通なら到底受け入れられるはずがない事だが、情欲に濁ってしまった彼女は誓ってしまう。

「はい、はい、誓いますうっ！わたしは、家畜ですっ、ケツを振ってご主人様におちんぽを懇願するいやしい雌豚ですっ♡」

「へへっ、雌豚がっ！豚は人語を喋らないべっ！」

「……ぶひい♡ぶひいっ♡ごめんなさいぶひいっ♡」

まるで虐げられることすら快樂になっっているかのようにクールな顔を媚びへつらった顔に変える彼女。

「まったくいやしい雌豚だべなあ……。んなら、望みのものをくれてやる、感謝するんだべ！」

「あひひい……♡あひひい……♡ぶひひい……♡」

数時間にわたって犯され続けた彼女の身体は全身が白濁にまみれきっていた。その顔は弛緩して下品に舌を出しながら涎を垂らし、その目は蕩けきっている。ときおり呻きながら身体を小刻みに痙攣させる彼女の姿は、かつてのクールな面影を微塵も感じさせなかった。

「ふう……今回も無事に調教できただよ、こいつは高く売れそうだべ。でもちよつともっだいねえべなあ」

そう男が呟くも、快楽の余韻に浸りきっている彼女には聞こえていない。

「あはあ……♡しあわせえ……♡」

彼女につけられた耳と尻尾のアクセサリーが一瞬妖しく光った！。

この村にはある秘密があった。

畜産が盛んなこの村では動物達の他にも、人間を愛玩ペットとして調教し、貴族や奴隷商人等を相手に高く売り払われていたのだ。

深い森の奥にありながら、遺跡や歴史の遺物が近くにあるという理由から旅の人間が定期的に訪れるこの村は絶好の立地だった。

基本的に女性を狙い、男や価値のなさそうな人間に對しては、好意的に歓迎して見送るため村の評判は悪くない。仮に人がいなくなつたと怪しまれても、危険な遺跡に向かつた事にすれば消息不明として扱われる。

そうして調教された女達は裏ルートで売り払われていくのだ。

そして、村一番の調教師である男に【雌豚】として調教されてしまったイザベルは、しばらくその男に愛玩ペットとして可愛がられた後、有力貴族に高値で売られていった。

そしてしばらくして、王宮に帰ってきたイザベル。行方不明だった彼女の帰還に同僚達は口々に心配の声をかけるもクールな顔を崩さない彼女に皆一様に安堵した。

しかし、王宮の人間達は知らない。

そんなクールな顔の裏には、情欲に溺れ切った雌豚の顔があるという事を。

そして彼女は、自分の飼い主である貴族様の命令で新たな獲物を選別するために戻ってきたという事を。

そしてまた新たな人間が村を訪れる――。

2

雌豚調教



カード詳細



名前 ゴブリンマウントドラゴン

クラス ニュートラル

タイプ -



進化前

守護

ファンファーレ 自分の場にゴブリンが2体以上いる場合、疾走を持つ。

ターン終了時、母乳を出す。

ラストワード 孕み袋 ゴブリンの家畜を手札に加える



進化

さあ飛べ！飛べ！、ピシバシやっちゃうんだヨ！！！！。

言うことを聞くんだヨ！こいつオシオキしちゃうヨ！

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【ゴブリンマウンtdラゴン】

蒼空を飛翔し、生物の頂点として君臨する種族であるドラゴン。

さらにそのドラゴンに騎乗し、竜騎士として戦場を駆け回る角をもった勇敢な女傑達。

威風堂々たるその姿はとても美しく、まさに戦場を彩る華であった。

だが、今は無様で無残な姿に変わっていた。格下の存在であるゴブリンに飼われたその姿にかつての堂々たる輝きは無く、なまじ美しい姿なだけにより被虐的な淫靡さを醸し出している。

かつては戦場を駆け回った彼女達も、今はゴブリンに飼われる家畜であり、ドラゴンを操るための道具でしかなかった。

「むぐつ……ふぐつ……」

広大な空をドラゴンとそのドラゴンに騎乗する
竜騎士が飛翔していた。

しかしその姿は恥部を全て露出し、膣内に突起物を
挿入する形で身体を固定され、猿轡に手綱をゴブリン
に握られた無様な姿だった。

ドラゴンを操るための道具兼ゴブリンの家畜である
彼女達は、かつては戦場に君臨し恐れられた美しく
勇敢な竜騎士だったのだが、今はみる影もない。

「……」

飛翔するゴブリンの家畜の中でも、一際美しい身体
持つ彼女の名前はフォルテ。

身体は調教により無様に装飾されているが、その瞳
は抵抗の意志を失っていない。

ゴブリンが手綱を強く引っ張り命令するも、彼女は
従わず抵抗を続ける。



「むぐっ！、ふ、ふぐうっ！」

だが、そんな抵抗を続ける彼女の身体に変化が起き、彼女は顔色を変える。

彼女の下腹部に淫紋が現れ、輝きを放っていた。

これこそ、彼女達が格下のゴブリンの家畜に成り下がってしまった原因である「家畜の淫紋」であった。彼女の脳内にゴブリンに自分が家畜として飼われる事に対する幸福感や飼い主であるゴブリンに対して従わなければならないという意識が強制され、彼女の抵抗の意志を塗り潰していく。



「むぐっ……っ……っ！」

飼い主であるゴブリンに手綱をにぎられている、その事実だけで淫紋に犯された彼女は軽く達してしまい身体を震わせる。

その固定された股からは蜜が垂れるほど溢れ、乳首は激しく自己主張するほど勃起していた。

そして抵抗の意志を失いゴブリンの命令に従ってしまうのだった。

その様子を見て、ゴブリンは満足げに手綱を引っ張る。

そして、ゴブリンを乗せたドラゴン達はどこかの森へ降りていった。



「ふう……ふう……んぐう……ふう……」

しばらくして、降り立った森から飛び立つドラゴンとゴブリン達。

ゴブリン達はみな一様に満足した顔を浮かべていたが、ゴブリンの家畜たる彼女達は皆憔悴しきった顔を浮かべていた。

その身体は黄色く濁った液体にまみれ、森で一体何をされていたのか明確に表していた。

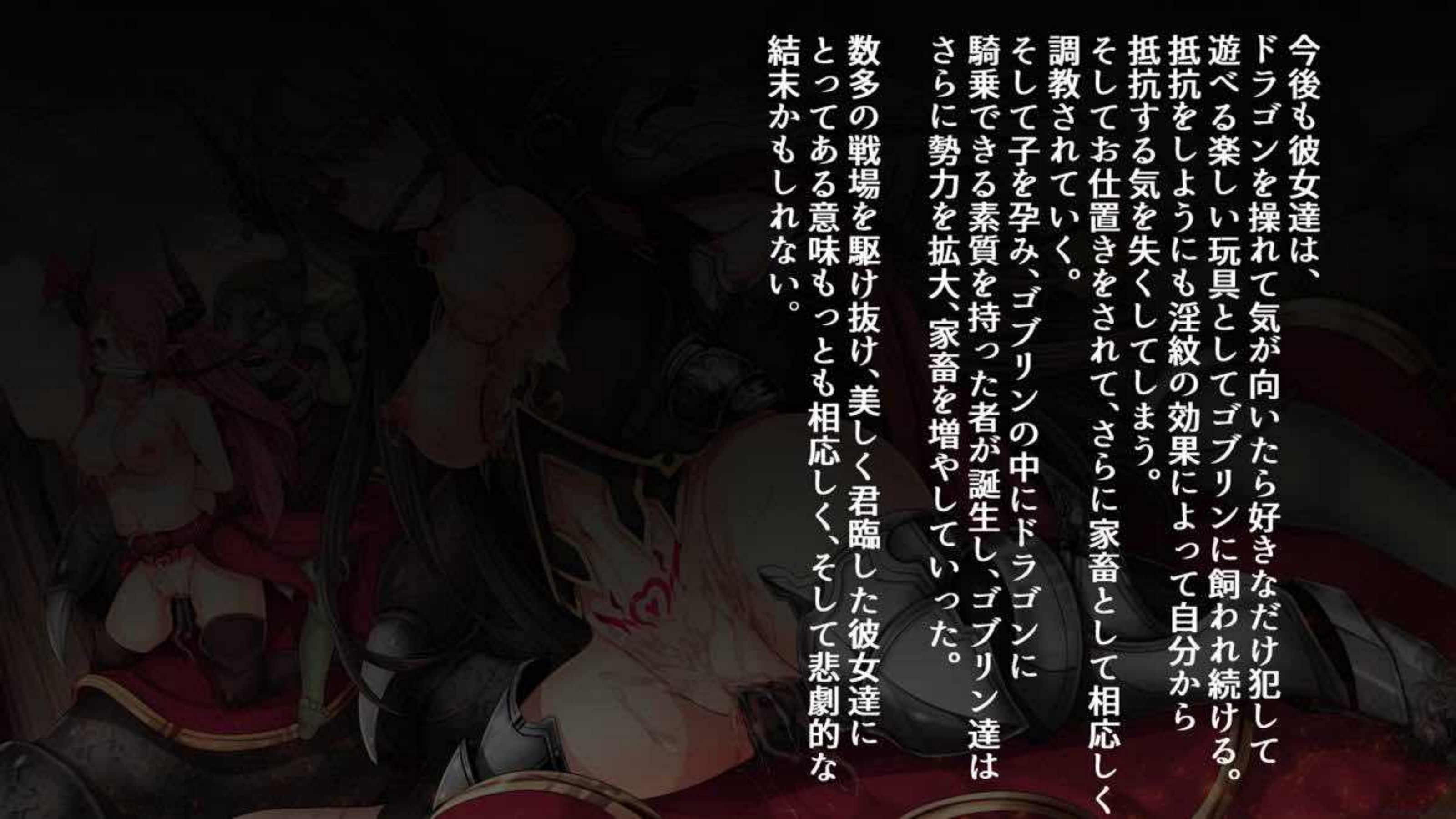
「びくっ……ふ、ふあい……」

ゴブリンが手綱を強く引っ張ると、びくっつと身体を震わせ焦った様子で命令に従う彼女達。

よほどの事をされたのだから、その顔には怯えが
ありありと見て取れた。

そしてゴブリンを乗せたドラゴンとその竜騎士達は
またどこかへ飛び去って行った。





今後も彼女達は、
ドラゴンを操れて気が向いたら好きなだけ犯して
遊べる楽しい玩具としてゴブリンに飼われ続ける。
抵抗をしようにも淫紋の効果によって自分から
抵抗する気を失くしてしまおう。
そしてお仕置きをされて、さらに家畜として相応しく
調教されていく。

そして子を孕み、ゴブリンの中にドラゴンに
騎乗できる素質を持った者が誕生し、ゴブリン達は
さらに勢力を拡大、家畜を増やしていった。

数多の戦場を駆け抜け、美しく君臨した彼女達に
とってある意味もつとも相応しく、そして悲劇的な
結末かもしれない。

5

ゴブリンマウントドラゴン



5

1

カード詳細

5

奴隸人形の糸



名前 どれい にんぎょう 奴隸人形の糸 いと

クラス ネメシス

タイプ -

スペル

相手の場のフォロワーを選択して破壊する。その後、自分の場に
奴隸人形を一体出し、破壊したフォロワーの攻撃力/体力と同じだけ+する。

エンハンス 10 このバトル中に相手のリーダーに**奴隸人形**によって与えた
ダメージが10以上の場合、相手のリーダーを**奴隸人形**か**愛玩人形**にして
このバトルに勝利する。

昏く淀んだ欲望を持った人形師は、いつしか人を人形として操れるようにな
っていた。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【奴隷人形の糸】

寂れた屋敷に住む幼い少女がいる。

彼女名前はルナ。

無意識ながらも、ネクロマンサーとしての能力を持った彼女は屋敷の「お友達」に囲まれ日々を過ごしていた。

そんな彼女が住む屋敷に、一人の訪問者が訪れた。

醜悪な笑みを浮かべ悪意を隠そうともしないその男に、屋敷の住人達は警戒し容赦なく襲い掛かる。

ルナも襲撃者である男に対して、屋敷の住人と共に攻撃を加えた。

やがて追い詰められた襲撃者の男。

その男に対して、ルナは無邪気に語り掛ける

「ルナのお友達になってくれる？」

そして男に住人達が一斉に襲い掛かった。

その状況にあっても笑みを浮かべていた男が手を一度だけ横に振る。

それだけで状況が一変した。

男の手から解き放たれた糸のような魔力線が、屋敷の住人達に絡みつき、まるで人形のように動きを止める。

「きゃあああああっ！」

ルナ自身も動きを封じられ、身体を自由に動かす事ができなくなっていた。

その姿を見て、襲撃者の男はさらに笑みを深める。

淫靡な人形劇が今始まるうとしていた。

「ん、んんっ、動けないし、あっつ、は、恥ずかしいよ」

彼女は服を破かれ、お尻を差し出すような四つん這いの恰好で動けなくなっていた。

恥部を余すところ無く露出している事に顔を赤くし、反射的に手で隠そうとするも身体は動かない。

その四肢には光る糸のようなモノが繋がっており、それはまるで操られる人形のような姿だった。

「身体が勝手に動いちゃう?!?!あ、ひゃうっ!」

その糸に引っ張られるように彼女の意思とは別に身体が動き出し、彼女の敏感な部分を擦り始める。しびれるような感覚に声をあげてしまおうルナ。

「んあっつッ、ッヨはだめだよおーひう、あん!」

やらされているとは言え、一見してそれはオナニーをしている姿だった。

彼女にその経験があるかどうかはわからない。しかし彼女は刺激に身体を跳ねさせている。

次第に呼吸が荒くなり、快感に甘い声をあげ始めた。

「ルナちゃんにとってもえつつちな顔」

「そんななに気持ちよさそうに手を動かして……ふふっ、手伝ってあげるわ」

「ええっ!?…みんなどうしてっ?!」

ルナのお友達である仲間達が恥部を自ら露出させながらルナに近づき、愛撫を始める。

彼女達もルナと同様に糸に繋がれており、その瞳に光は無く、完全に操り人形になっているようだった。

「ひゃあっ!…そ、そっちは…んんうっ!」

白髪の女性がルナの後ろに回り、お尻を指で弄りながら秘部を舐める。

金髪の女の子は前にまわり、ルナの乳首や胸を執拗に愛撫した。

「だめえっ!…あん!…変な感じ…もうやめてよお…!」

お尻の穴を弄られるという未知の感覚にびくびくと身体を跳ねさせるルナ。

動かない身体では抵抗をすることもできない。

「あんっ!…でちやうど…でちやうどよお…あっ、ああっ!」

「だめえええええつっ!」

ぷしゃあああああああつ
未知の感覚と快感により達してしまおうのと同時に、
おもらしをしてしまうルナ。
びくびくと身体を痙攣させながら水溜まりを作っ
ていく。

「おしっこ……でちやっただあ……はふう……」

絶頂の余韻とおしっこを出し切った解放感や羞恥心
等様々な感情が入り混じり、意識を朦朧とさせる
ルナ。
ぴちやぴちやと水滴が落ちる水音が響く。

「あゝあゝ漏らしちやっただあ」

「いけない娘……お仕置きが必要かしら」

「ごめんなさい……ごめんなさい……」

朦朧とした意識のまま謝罪をするルナ。
それは彼女の心が屈服してしまった瞬間だった。

「あつ……」
新たな糸がルナの頭部に繋がる。
ビクツと痙攣した後、彼女の瞳から光が消え、
人形のように動かなくなる。
他のお友達のように、彼女自身も操り人形にされて
しまったのだ。

人を支配したいと昏く淀んだ欲望を抱えた人形遣い
は、遂に人の身体はおるか人の意思すら捻じ曲げ
操り人形のように動かす事ができるようになった。
ネクロマンサーの少女が暮らす屋敷の噂を
聞きつけたその人形遣いは自分の欲望を満たす
ために訪れ、人形劇を演じた。

そして、
その人形遣いの新たな「コレクション」が作られた
のだった。

「あん♡ふああっ♡んっ♡きもち、いい♡あん♡」
数日後、見知らぬ男の相手をしたながら快楽に酔った
声をあげ乱れるルナの姿があった。
周りでは、ルナのお友達だった女達もおもいおもいに
多数の男達とまぐわっており、屋敷中に嬌声が響き
渡っている。

「おじさまの♡♡♡でもおおきくて♡♡すき♡♡」
ルナの幼い身体に容赦なく叩きつけられ、それを
受け止める度に卑猥な音が響いた。

今では屋敷では毎晩のように男達が招待され、
乱交パーティーが開催されていた。
噂が噂を呼び、半信半疑ながらも男達が訪れ、
快楽の饗宴を楽しんでいく。

妖しく誘うように淫らな恰好を晒す少女や美女達に
男達はわれ先にと群がった。

「ふにあああああ♡♡♡♡♡」

男の出した精を膣内で受け止めるルナ。それと同時に彼女も絶頂し、身体を震わせる。それを見て、次は自分の番だと我先に男達が、絶頂の余韻に震えるルナに群がる。

「ん……♡お友達、いっぱいだよ♡みんな一緒に、ルナが遊んであげるね♡♡♡」

快樂の宴はまだ始まったばかりだった。

「はあ……♡ひう……♡べとべとだよお……♡」
数時間後、全ての招待客のお相手を務めたルナは
全身白濁液にまみれた状態で余韻に浸っていた。
周りも同じように白濁でまみれた状態で倒れている。
男達はいつのまにか消えていた。

「ほんじつも、いさんか、ありがとぅいざいしましたあ」

彼女達は每晚噂を聞いて訪れた客と招待された客を
相手にまぐわい続ける、
それが彼女達に与えられた、

愛玩人形としての役目なのだから。



人形遣いの男の策略にはまり、「コレクション」に加えられてしまったルナとその仲間達。

愛玩人形としての彼女達に与えられた役目は、その身体を使って男達を屋敷に誘い込むことだった。

誘い込まれ、快樂の宴を楽しんだ男達はその後、人形遣いの実験体として使われた。

その実験によりさらに自分の能力を強くしていった人形遣いは、高名な魔術師、王城の姫と従者、拳句には神すら操れるようになっていく。

それぞれが生きていた人生など関係ない、その全てを力の一振りで台無しにして、支配する。

神すらをも巻き込んだ、全人類・全生物による、乱交の宴の日々が始まる日も、そう遠くはない。

5

奴隸人形の糸



カード詳細

1

オークの戦利品



名前 ^{せんりひん} オークの戦利品

クラス ニュートラル

タイプ -



スペル

孕み袋 ゴブリンの家畜を手札に加える。

エンハンス 6 相手のフォロワーを破壊して、オークの戦利品を手札に
える。

「いやあっ！助けて！オークに…うげえっ！げほっ！や、やめ…ひぎっ……」
——哀れなエルフの悲鳴が響く。

セット： 妄想カードバックVol.2

カード詳細

2

ゴブリンの家畜



名前 ^{かちく} ゴブリンの家畜

クラス ニュートラル

タイプ -



進化前

守護

ファンファーレ 自分の場のゴブリン全てを+0/+1する。

自分のターン終了時、**母乳**を出す

ラストワード 自分の場にゴブリンを一体出す。



ゴブリンの家畜となった者は玩具として弄ばれるか、繁殖のための母体に
され乳を搾られるか、戦いで盾として利用されるかだ。

セット： 妄想カードバックVol.1

1

1

カードストーリー【オークの戦利品】

森の中を行軍する集団がいた。

ゴブリン・オーク・オーガなどの異種族からなる、集団だった。

彼らなりに共生し、比較的統率のとれたこの集団は自分たちの巢に帰る道中だった。

行軍する足音やゴブリン達の醜悪な声に混じって女の悲痛な悲鳴が響く。

みな一様にボロボロの衣服を身に着け、鎖に繋がれゴブリン達に繋がれている。

騎士であろう人物やゴブリンに跨れ大きな胸や尻を馬のように叩かれている金髪の司祭もいた。

彼女達はゴブリン達の戦利品なのだ。

その集団の中に、オークに四肢を繋がれた一人の少女がいた。

森の守護者たるエルフの少女の名前はアリサ。

親友を救う旅の途中で襲撃にあった彼女は抵抗するもオーク相手に敗北した。

そのオークの戦利品として繋がれているのだ。

身動きができず声も出せないこの状況に、彼女は何もすることができなかつた。

「んんうー！んんっんんんっ！」

四肢をつながれ猿轡を噛まされ、その健康的な肌を外気に晒し、オークの剥き出しのペニスに跨るように磔にされた、エルフの少女アリサ。

その乳首には太めのピアスが装飾されており、彼女が既にオークの所有物であることを示していた。

（なんとかして逃げ出さなきゃ……でも……）

一度逃げようと大暴れした事があるが、その後された事を思い出し身体が恐怖に震えて何もできなくなる。

（それに……んんっ、擦れて……）

オークが歩く度に、繋がれた鎖がガチャガチャと音を立てながら揺れて身体が上下する。

その際にまるで素股をしているかのように秘部が擦れてしまうのだった。

最初は不快感でしかなかったソレも、長時間続くと妙な気分になってしまう。

「んっ、んむうっ」

少し経つと擦れる音にニチャニチャと違う音が響き渡り始めた。

長時間の素股行為によって彼女の秘部が濡れ始めたのだ。

（そ、そんな、わたし……ちがう、ちがうのっ）

羞恥心で顔をさらに赤くするが、一度自覚してしまふとさらに意識してしまい、身体が熱くなっていく。

（だめ、このままじゃ……なにか逃げ出す方法は……！）

擦れる感覚に悶えながら必死に考えを巡らす彼女。

するとオークが段差を乗り越えようとしているのか彼女の身体が大きく跳ねた。



オークの射精は人の比ではなく、大量の精が注がれていく。

注がれた精液が溜まり、彼女の腹がまるで妊婦のように膨らんでいった。

「っ……っ……」

(やめ、やめて、いや、いやあああああ)



「うんぱっ……うぷっ……うえ……」

やがて射精が止まる。

彼女のお腹はぽっこりと大きく膨らんでしまい、彼女の膣内からとめどなく精液が溢れていた。口からは涎を垂らし、白目を向いて痙攣するその姿は普段の元気ハツラツとしつつもしっかりとした意志を持った彼女からは想像もできない姿だった。

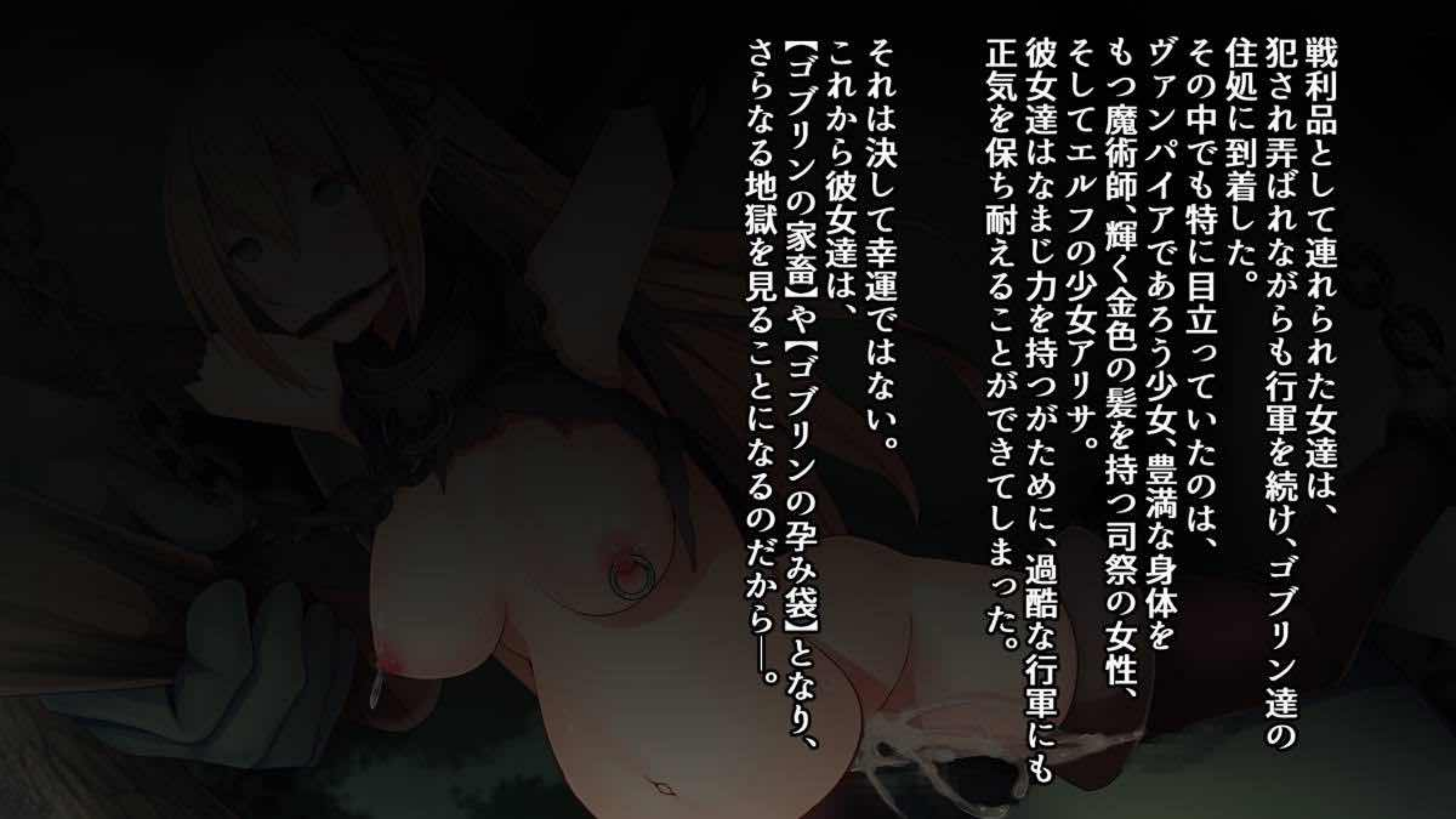
そんな彼女を気にも留めず、オーク達は行軍を続けていた。

彼女はただの戦利品の玩具でしかない、そんな玩具を誰が気に留めようか。

彼女の地獄はこれで終わりではない。

そもそもまだ始まってすらいないのだ。

彼女は今、ゴブリン達の巣という地獄に向かっている道中なのだから――。



戦利品として連れられた女達は、
犯され弄ばれながらも行軍を続け、ゴブリン達の
住処に到着した。

その中でも特に目立っていたのは、
ヴァンパイアであろう少女、豊満な身体を
もつ魔術師、輝く金色の髪を持つ司祭の女性、
そしてエルフの少女アリサ。
彼女達はなまじ力を持つがために、過酷な行軍にも
正気を保ち耐えることができてしまった。

それは決して幸運ではない。

これから彼女達は、

【ゴブリンの家畜】や【ゴブリンの孕み袋】となり、
さらなる地獄を見ることになるのだから――。

1

オークの戦利品



カード詳細

2

壁尻の社



名前 ^{かべ} ^{じり} ^{やしろ} 壁尻の社

クラス ニュートラル

タイプ -



アミュレット

カウントダウン 3

自分のターン終了時、自分のリーダーを1回復する。

相手のフォロワーを破壊する度に、このアミュレットのカウントダウンを1遅らせる。

お賽銭はこちらに、ご自由にお使いください。

セット： 妄想カードパックVol.2

カード詳細

4

壁尻の刑



名前 ^{かべ} ^{じり} ^{けい} 壁尻の刑

クラス ニュートラル

タイプ -



スペル

相手の場の性別♀フォロワーかアミュレットを1つ選択し、破壊する。

自分の場に壁尻の社を出す。

ただただ性欲のはけ口として、尻を差し出した無様な姿を晒させる屈辱の刑。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【壁尻の社】

山奥深くにある、秘境の社。存在すら危ぶまれるこの社にはある噂がある。

まったく人がこないような場所だったが、ある時期から毎日のように近隣の村々から男達が押しかけているらしい。

中には早朝からでかけて日が沈むまで帰ってこない者もいるようだ。

そして皆一様にスツキリとした満足した顔で戻ってくるのだという。

一体そんな場所でなにが行われているのか。

それは一方的な肉欲の宴だった。

巫女の石

男達が次々と露出された尻に挿入していく。
既に視線に反応して感じていたのか、十分すぎる
おぼろげに濡れていたソコは抵抗もなくするりと受け入れ
てきた。
ねっとりとした腰を動かして味わう者、肉と肉がぶつかり
合う音が響くほど腰を動かす者と様々だった。
中には処女を頂き歓喜の声を上げる者もいた。
あたりには雌の匂いが漂い、熱気が高まっていく。

イリス

天狐

「あっ、ああっ、激しっ、あっ、やめてっ!」

一方壁の向こう側では、壁にハメられた女達が嬌声の大合唱をあげていた。いくら懇願しようとも壁の向こうに声は届かない。それどころか、意思に反して愛液を溢れさせてしまう身体によって悦んでいると勘違いされ、さらに激しくされてしまう。

「なんで、こんなこと……にっ! ああん!」

その女達の中に教会の司祭であるイリスはいた。彼女はこのような壁尻としてハメられるのは一度や二度ではない。過去に怪しい魔術師相手に油断して敗北した際にこの場所に転移させられ壁尻の状態で一日中犯され続けた。その後、定期的はどこにいても目を覚ますと勝手に転移させられ、無数の男達にハメられるようになったのだ。

「神、よ……このようなの、わたくしをお許しくださ……
いっ! ひぐうっ!」

巫女の石

イリス

天狐

「締まりが悪いな…おらっ！お、いい感じだ」

「こいつらマゾかよ、まあこんなことしてるんだ、お当たり前が。」

一人の男が尻を叩き始める。それを他の男達も真似をし始めた。

尻を叩く小気味良い音があたりに響き渡る。叩く度にビクッと震えた後に膣内が締まり、愛液が溢れる。やがて丸出しの尻は真っ赤になっていた。



「あぎっ！？あっ、うぐうっ！やめ、ひぐうっ！」

尻を叩かれる衝撃に悶える女達。

その声に甘い響きが混じっているのは、自然と調教されてしまっている証だろうか。

尻を叩かれながら激しく挿入され、身体を反り返しながら絶叫する女性もいた。

巫女の石

イリス

天狐

「激しい締め付けにより限界が来てしまった男達に
より、ドプッドプツと次々と尻達の腔内に注がれて
おいぐ。
注がれる度にびくびくと痙攣をする尻達を見て
男達は満足感を得た。
だが働き盛りの男達の性欲はとどまる事をしらず、
まだ一日は始まったばかりで、これからここを
訪れる男達はどんどん増えていくのだ。」





「う……ん、んっ……はあっ……」
もはや数える気にもならない程の男の相手をした
イリスは、息も絶え絶えで涎を垂らしながら朦朧
としていた。

周囲の女達も同様であり、いまだ挿入されているのか
頭を振り乱し、決して届かない懇願をしながら嬌声
をあげている女もいる。

目が沈めば一旦は解放される。

だが必ずまたこの地獄は始まるのだ。

彼女達が本当の意味で解放される事は決してない。

いつその事、快楽に身を委ねよがり狂ってしまった
ほうが彼女達にとって幸せなのかもしれない。

「今日はアリサちゃんか、俺この娘と相性いいんだ」

「俺はイザベルだな、一日中犯してやったこともあつたぜ。最初は反発する感じだったんだが、尻を激しく叩いてやったら大人しくなつてな、いまではちよつと叩いてやるだけでお漏らしするようになった」

皆それぞれお気に入り【壁尻】に対して語り合う。日替わりで変わる壁尻達に皆それぞれこだわりや自分なりの楽しみ方を持ち始めていた。

お気に入り娘の尻がいればじつくりと可愛がり、新しい尻がいれば具合を確かめようと男達が我先にと群がる。

ここでは彼女達の人生や生い立ち等関係ない。皆等しく、男達の性欲を受け止め、発散するためだけの道具でしかなかった。

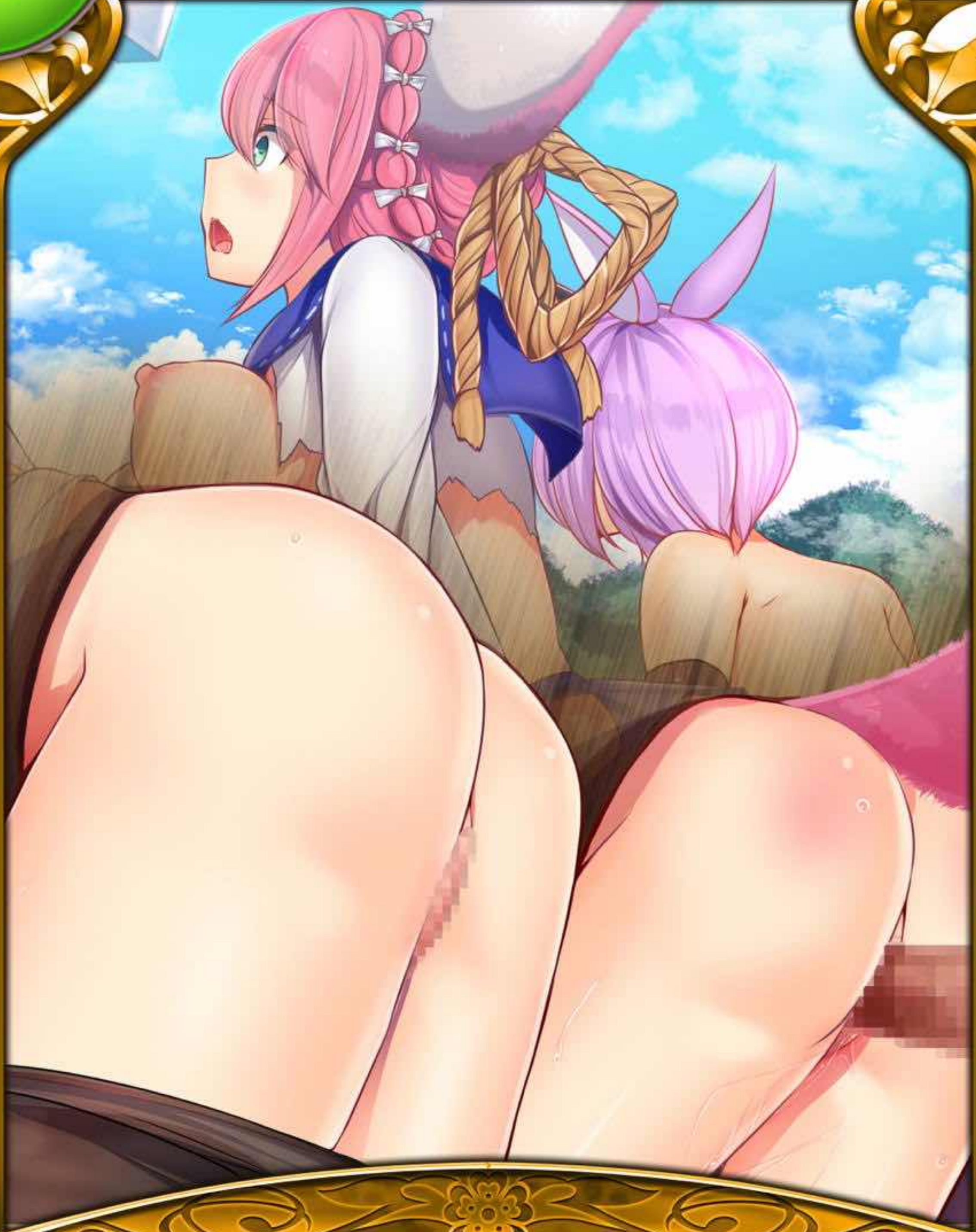
その後もイリスは壁尻として定期的に転移され続け淫らに開発されていった。壁尻として転移されない期間が続くと、欲求不満が重なり普段の職務に手がつかなくなる。オナニーの回数が増えていくがそれでも満たされない身体になつてしまった。

そして転移されると、まっぴりしてましたとばかりに乱れ狂う。

彼女が欲求に耐えられなくなり、娼婦として墮ちる日はそう遠くはない。

2

壁尻の社



カード詳細

7

触手の苗床



名前 しょくしゅ なえどこ 触手の苗床

クラス ニュートラル

タイプ -

アミュレット

カウントダウン 5

ファンファーレ 相手のフォロワー1体を選択して破壊する。

自分のターン終了時、触手生物の卵を出産して場に出す。選択して破壊したフォロワーの攻撃力/体力と同じだけ+する。

より強力な生物を造るには、より良い母体が必要だ。

まだだ…まだ足りない、もっとサンプルを用意せねばー。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【触手の壺】

より強い生物を作るにはより良い母体がいる。
禁忌の研究をする闇の魔術師はその結論に至った。

ならどうすれば良いか？

簡単だ。捕まえて孕ませればいい。

私の研究成果である触手生物の精を与え、孕ませ、
より強い生物を産ませる。

それを繰り返して、より強力な生物を作っていく。

たくさんの母体を確保して実験を行う必要があった。

そうして、何人かの母体候補を選んだ魔術師は行動に
移す。

そして…。

ヌメヌメとした触手の感触。

四方を触手に囲まれた空間に囚われた少女達がいた。

襲撃してきた魔術師の召喚した触手の群れに飲み込
まれてしまった彼女達は、四方を囲む触手に吊られ、
脱出する事もできずもがいていた。

「ひっ、ヌメヌメしてきもちわるい……」

ヌメヌメとした触手の感触。

四方を触手に囲まれた空間に囚われた少女達がいた。

襲撃してきた魔術師の召喚した触手の群れに飲み込まれてしまった彼女達は、四方を囲む触手に吊られ、脱出する事もできずもがいていた。

彼女達の衣服は破かれ恥部は全て露出され、触手によって股を無理やり開かされている。

彼女達は羞恥心から体を隠そうともがくが、触手に絡まれた身体はほとんど動かすことはできない。

「ひっ……嫌だよ……パパママ助けてよお……」

恐怖心に染まっついていく彼女達。

やがて触手達が蠢き、意思を持って動き始めた。



触手から吐き出される精は止まることを知らず、
彼女達の身体をさらに汚していく。

もはや膣内は余すところなく満たされ、身体中
をベトベトにコーティングされた彼女達は、
精液の催淫効果による連続した止まらない絶頂に
より、まともな意思を保つ事すら難しい状態になっ
ていた。

膣内に注がれ溢れた精液や吐き出された精液が
触手の空間に溜まっていく。

「うぶっ…おぼはあつ…おぼれ。ちやう…」

彼女達の身体の大部分が浸かってしまっただけで溜まってしまった精液。

この精液に長時間浸かる事によって

彼女達はさらに身体を作り変えられてしまう。

「パパ…ママ…たすけて…」

そして、彼女達は意識を失い、白濁の液に沈んだ。

そして、数日後。

そこには大きくお腹を膨らませ、生命を宿した彼女達の姿があった。

まだそれほどの時がたったわけでもないのに、母体としての役目を果たしているのは、彼女達が精液に浸かり身体を作り変えられてしまった結果だった。

その秘部は生殖行為を待ちわびているかのように濡れ、愛液を溢れさせている。

だが、急激な身体の変化の代償として、身体は反応しつづも彼女達の自我はほとんど無くなっており、時折喘ぎ声やうめき声をあげるだけになっていた。



彼女達の膣内に触手が挿入され、空間が精液で満たされていく。



『Perok... Pooo Pooo』



魔術師の実験は成功だった。

実験として捕獲された少女達は、ものの数日の内に母体として適応し孕んだ。

だが、その負荷により自我が崩壊してしまったのは誤算だったが…、しかし母体としてならそちらの方が都合が良いだろう。

まだまだデータが足りない。

さらに複数の母体を確保せねば…。

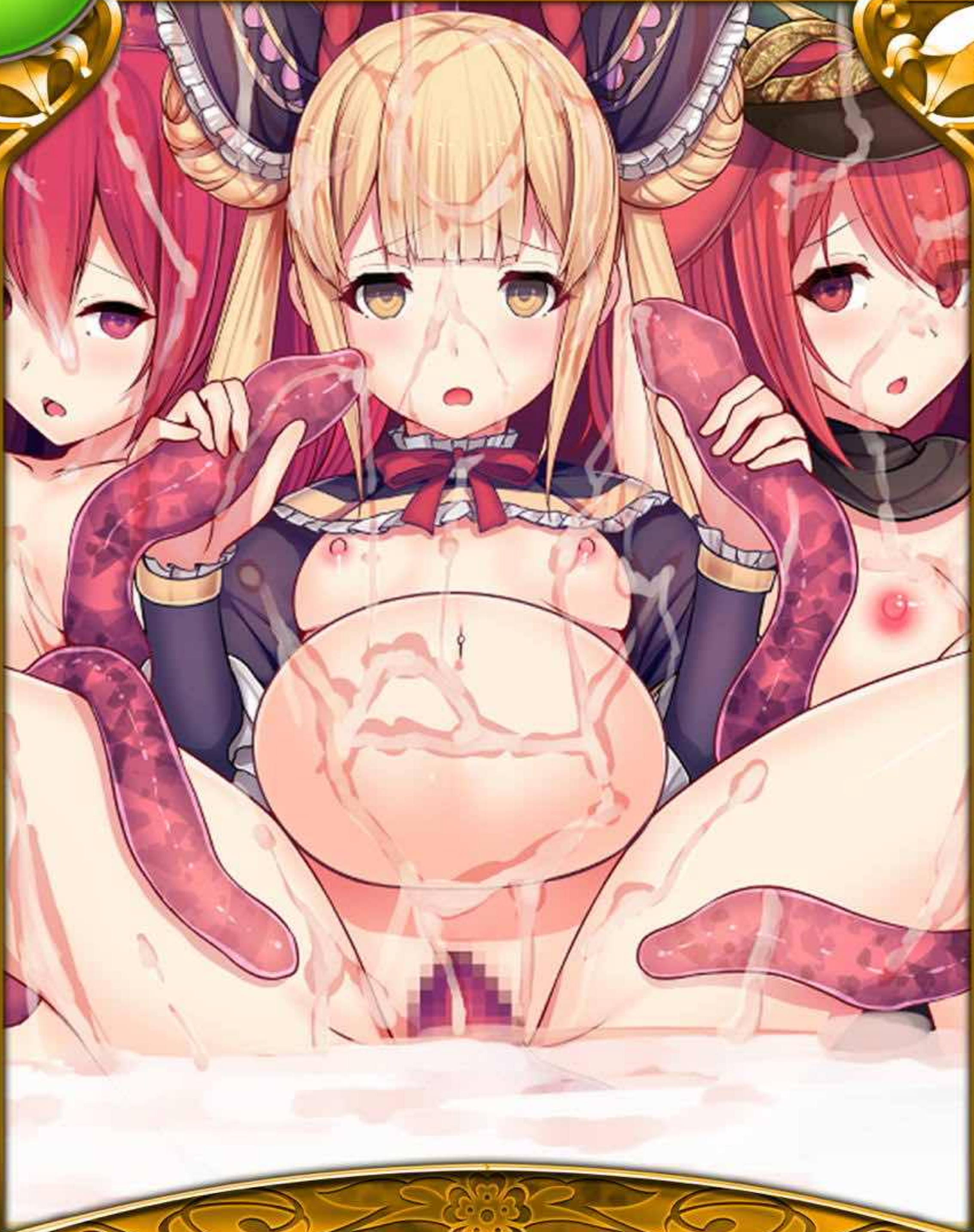
魔術師は己の研究欲を満たすため、行動を開始する。

彼は次に森の守護者であるエルフが住むという森に向かった。

世界の有力な女性達が次々と行方不明になる事件が世間を震撼させ、それと同時に強力な正体不明の生物が現れるようになるのは少し先の話である。

7

触手の苗床



カード詳細



名前 だいはんしよく 大繁殖

クラス エルフ

タイプ -



アミュレット

カウントダウン 5

ファンファーレ 自分の場の上限の数だけ蜜舐フラワーを場に出す。

相手のターン終了時に、自分の場に蜜舐フラワーを出す。

ラストワード 自分の場の蜜舐フラワーが4体以上なら、相手のリーダーを取り込みこのバトルに勝利する。

「わたしが…じゅるっ！ごくっ…みんなを、んくっ、まもら、なきゃ、ぶはっ、んくっじゅるるるるっ、でも…甘い♡」—媚薬蜜に溺れた守護者。

セット： 妄想カードバックVol.2

カード詳細



名前 みつなめ 蜜舐フラワー

クラス エルフ

タイプ -



進化前

ドレイン

ファンファーレ 相手の場のフォロワーを選択して毎ターン行動不能にする。

毎ターンこのフォロワーを+1/+1する。

自分のターン開始時 依存性のある媚薬蜜を手札に加える



進化

「ちゅっ、じゅるっ♡んくっごくっ、ぶはあ…♡あまいの…もっとお…♡」

この植物に囚われた女達は、与えられる蜜を求めて自らの愛蜜を捧げた。

セット： 妄想カードバックVol.1

カードストーリー【大繁殖】

森の中には多種多様な植物や生物が存在する。人を食べてしまう獰猛な植物や、胞子によって生物に寄生し操ってしまふもの、捕らえた獲物を苗床として弄び続けるもの、植物から分泌される蜜により捕らえた雌を自分から離れられなくするもの等様々だ。

そういつた植物・生物が存在する森の中ではあるが、食物連鎖や森の守護者たるエルフや森の住人たるフェアリーや獣人のおかげで、危険な生物で溢れかえるといった事態は起こらなかつた。

しかし今、その神聖な森に異常事態が起きていた。

危険な植物達が大量繁殖をしているのだ。

その勢いはとどまる事を知らず、森全土を覆いつくそうとしていた。

攫われた親友を助けるために旅をしていたエルフの少女アリスはこの異常事態に偶然居合わせる。森の守護者としての使命に駆られた彼女は、森の同胞達と事態解決に動き出し森の奥深くへと向かった。

しかし、彼女達が戻ってくることはなかつた。

「……ん、はっ！え、ええっ！？？なにこれっ！？」

意識を覚醒させたエルフの少女アリスは自分の置かれている状況に驚愕の声をあげる。異常事態の調査に乗り出した彼女は、森の奥で何かの魔術が使用された形跡を発見した。その瞬間、まるで異物を排除するかのようになり植物達が一斉に襲い掛かり、奮闘むなしく飲み込まれてしまった。

「やっ！は、はずかし……んんーっ！」

自分の状態を見て、羞恥心で身体を隠そうとするも植物触手に絡まれ身体を動かすことができない。周囲では同胞達も同じような状況になっていた。

「どうにかして脱出しないと……んん！」



「んぷうっ！っ！っ！じゅぷっ、ぷはっ、やんやめんぷうっ！っ！」
植物触手達が動き出し、彼女達の口の中に花卉がついた触手が差し込まれた。首を激しく振り抵抗するが口いっぱい無理やり差し込まれたそれを吐き出すことができない。

「んんっ！っ！っ！くっ！くっ！くっ！うえっ！っ！じゅぷっ！」
差し込まれた触手の先からなにかの液体が溢れ出し飲み込んでしまうアリサ。
甘い蜜のような液体を吐き出すこともできず、ただただ注がれるままに飲み込んでいく。

蜜舐フラワーと呼ばれるこの植物は、人から分泌される体液・特に女性から分泌される体液を好んで吸収して成長する。
媚薬のような性的興奮作用と依存性のある液体を出し、身体の至る所から摂取させ、体液を分泌させようとするのだ。

「ぷあっ、んん……じゅるっ！んっ！くっ！」

やがて彼女の様子が変わっていき、大きく開かされた股からは愛液が滴りおちていた。



「じゅる、じゅくっ……んふっ!?!んふううううっ!?!」

すっかり濡れた彼女達の秘部にも植物触手が差し込まれた。

その触手からも依存性のある媚薬蜜が分泌され、膣内余すところなく入念に塗りたくられていく。

「んひゅっ!むぐ、じゅぶっじゅくっ、んんっ!」

直接性感帯に塗りたくられるその効果は絶大で、身体を跳ねさせ目を白黒させるアリサ。口に差し込まれた触手からも絶えず蜜が溢れ出ており、彼女に思考の余裕を与えない。



「ぷあっ……あっっ♡、あ♡、んう♡、はあ……はあ……」

数十分後、口内と膣内を責める触手から解放された彼女達。

まだそれほど時間が経ってないにも関わらず、彼女達はすっかり出来上がっていた。身体は火照り汗にまみれ、愛液は溢れるほど垂れ、顔はとろんとしており、口内に差し込まれていた触手をもの欲しそうに見ている。

「ばふう……♡だ、だめ……ながされちゃ……んんう……」

まだ僅かに抵抗の意志が残っているが、身体は正直に反応しており、その視線は揺れ動く触手の先をしっかり追っていた。



「んぷっ！じゅっじゅるるっ！ぐんぐんぐんぐん」
そんな彼女に追いつくうちをかけるように再び口内と
膣内に同時に差し込まれる。

「じゅぽっじゅぽっじゅぽっ！」

ただ差し込まれ液体を塗り込まれるだけではなく、
性行為のように前後に激しく挿入される。

「んぷっ♡ぶあっ♡ら、らめ♡じゅぶうっ♡」

与えられる快楽に自らも腰を振りながら、乱れる
彼女。

「ぷはっ♡あ♡イク♡イク♡イク♡んんんんうっ♡」

大きく身体を仰げ反らせ絶頂する彼女。
しかし、彼女が絶頂しようが構わず激しく挿入を
繰り返す触手達。

「んんんうううっ♡イってるのっ♡じゅぶうっ♡」

連続した絶頂に乱れ狂う彼女達。

遠慮など持たない植物達の責めは終わる兆しを
見せなかった。こうして弱った彼女達に蜜舐ララ
ワ以外以外の別の植物達も絡みつき始めたのだった。

「あひい……♡はふう……♡あまいのお……ちようだい♡」

幾ばくかの時が過ぎた。
幾重にも絡みついた植物の蔓や触手から現れた
彼女達の姿は大きく変わっていた。
蜜舐フラワーによる媚薬蜜漬けのみならず、
乳首に寄生され母乳を吸われて花を咲かし、
直接卵を植え付けられてそのお腹はぽっこりと
膨らんでいた。

しかし媚薬蜜に骨の髄まで依存してしまった彼女達
は植物触手達に向かってあさましく腰を揺らし、
蜜をねだる。

彼女にはやらなければならぬ使命と旅の目的が
あったはずだが、そんなことはもうどうでもよく
なっていた。



「じゅぷっ♡きたあ♡じゅるるるるるるっ♡」
差し出された触手に自らむしやぶりつく彼女達。
甘い、甘い、蜜を味わいながら、もたらされる快樂
に身を委ねる。

彼女達は幸せだった。





異常繁殖した植物に囚われ養分と化した少女達。

彼女達が与える体液によってさらに繁殖し巨大に成長した植物達が、彼女達を捕まえたまま移動し森を蹂躞していく。

その植物達によって、同胞達が獰猛な植物に食べられるようが、はたまた同じように触手の虜になろうが、彼女達にはどうでもよい事だった。

植物触手に支配されてしまった彼女達にとって、与えられる甘い蜜と快楽が全てなのだから。

8

大繁殖



カード詳細

5

敵国の虜囚



名前 てき こく りょしゅう 敵国の虜囚

クラス ロイヤル

タイプ -

スペル

相手のフォロワーを選択し、破壊する。**敵国の捕虜**を手札に加える

エンハンス 7 **敵国の虜囚**を手札に加える。

【敵国の捕虜】 ラストワード **堕ちた虜囚**を手札に加える。

敵国の捕虜となった者がどんな扱いをうけるか、…それが女だとしたら
分かりきった事だ。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【敵国の虜囚】

黒く美しい髪と凛々しく意志を秘めた瞳を持つ彼女の名はエリカ。護衛兼お世話係として最愛の姫様を守る立場にある彼女は、メイドとしても戦士としても優秀であり、その目を引く容姿も相まって王国の中では姫様と同じく人気が高い。

そんな彼女は今、他の仲間達と薄暗い地下室で鎖に繋がれていた。

王国に侵略してきた他の国の兵士から最愛の姫様を守るため、そして逃がすために戦い虜囚となってしまうのだ。

他の目を引く容姿を持つ女騎士や戦士達と共に捕虜となってしまうた彼女。

そんな彼女達がどんな扱いを受けるのか、それは分かりきった事だった。

「くっ……離しなさい……うっ、あっ！」
ならんで鎖に繋がれ群がる男達に犯される女達。
いずれも目を引く美貌を持つ彼女達は男達の恰好
の的となっていた。

「おい！大人しくしろ！立場つてもものがまだ
わかってないみたいだな」

挿入された男のモノが奥深くにたたきつけられ、
露出した乳首を激しくつつねられる。

「うっ……」
痛みと抵抗できない無力感に大人しくなるエリカ。

「くっ、無様な姿だな。そんなお前らにお似合いの
アクセサリーをつけてやるよ」

「痛っ！あ、ああ、そんな……」

彼女達の乳首に金のピアスがつけられた。
鈍い輝きを放つそれは彼女達の身体を無様にそして
淫らに装飾している。

「ははっ！似合ってるぜ」

乳首ピアスをつけられ、羞恥と屈辱に歪んだ彼女達の
表情を見て優越感から嘲笑の声をあげる男達。

そしてより一層行為が激しくなった。

「たっぷり注いで孕ませてやるっ！うおおおっ」

「あっ、んっ、あっ、中はやめっ、やめてっ！ああっ！」

「あああああぁあぁあぁっ！いやあぁっ！あああぁっ！」

男のモノが奥深くに叩きつけられた瞬間射精される。まるで爆発したかのような熱と衝撃に絶叫をあげる彼女達。

ビクビクと身体を震わせ、嬌声混じりの声をあげる。

「中に出されてイっちまったのか？くくくつ、とんだ変態雌豚だな」

「はあ、はあ…くくつ、絶対に許さない…殺してやるわ
—人残らず…」

顔を赤くしながらも目の前の男に対して、殺意をこめて睨むエリカ。

「その威勢をいつまで保っていられるかな…」



「あっ！あんっ、むぐっ……ああんっ！あっ！」

幾ばくかの時が過ぎた。

彼女達は変わらず虜囚として犯され続けている。彼女達の腹部には敵国の紋章が焼き印され、何人かの女達は屈服し男達に媚びるような視線を向けている。

「お前も諦めたらどうだ？楽になるぜ」

「んあっ！うる、さいっ！あああっ！」

その中でもただ一人、エリカだけは抵抗していた。身体は開発されきってしまったが、いまだ屈服しておらず、反抗的な態度を隠さない。

「私は、姫様の従者っ！こんなこと、でっ！」

最愛の姫様をお守りする事が彼女の役目。姫様が無事な限り負けない……と意志をこめて睨む。しかし、

「ああ……お前らの国の姫様か、それならこないだ見たぜ。実に無様な姿だったな、お前らの国の大臣が裏切って差し出したんだとよ。今ではすっかり調教されて、裸で犬みたいに庭を散歩させられてた。しかも命令されて喜んで片足上げて小便してたな」

「え……？う、うそ……よ、そんな……の」

「嘘じゃないさ。なんなら頼んで連れてきてやろうか？感動の再開ってな！」

「あ、ああ、あああっ！そん、な……わたし、わたしは……」

「辛いだろう？認めちまえよ！自分はもうどうしようもない負け犬だと！男に身体を捧げることしかできない惨めな存在なんだと！」

「わたし、わたしはっ！ああん！負け……犬……っ！」

「あひいひいひいひいっ！♡♡♡♡」

男の精が大量に注がれ、嬌声を上げるエリカ。ビクビクと身体を跳ねさせ何度も絶頂に達する。

「おらっ！認めるよ！自分はこういう存在だ！」

「はひ♡はひいっ♡！わたしはっ♡！負け犬でしゅっ♡ぶざまにはいぼくしたみじめなそんざいなんでしゅっ！♡♡」

遂に屈服してしまった彼女はたが外れたように言葉を紡ぐ。

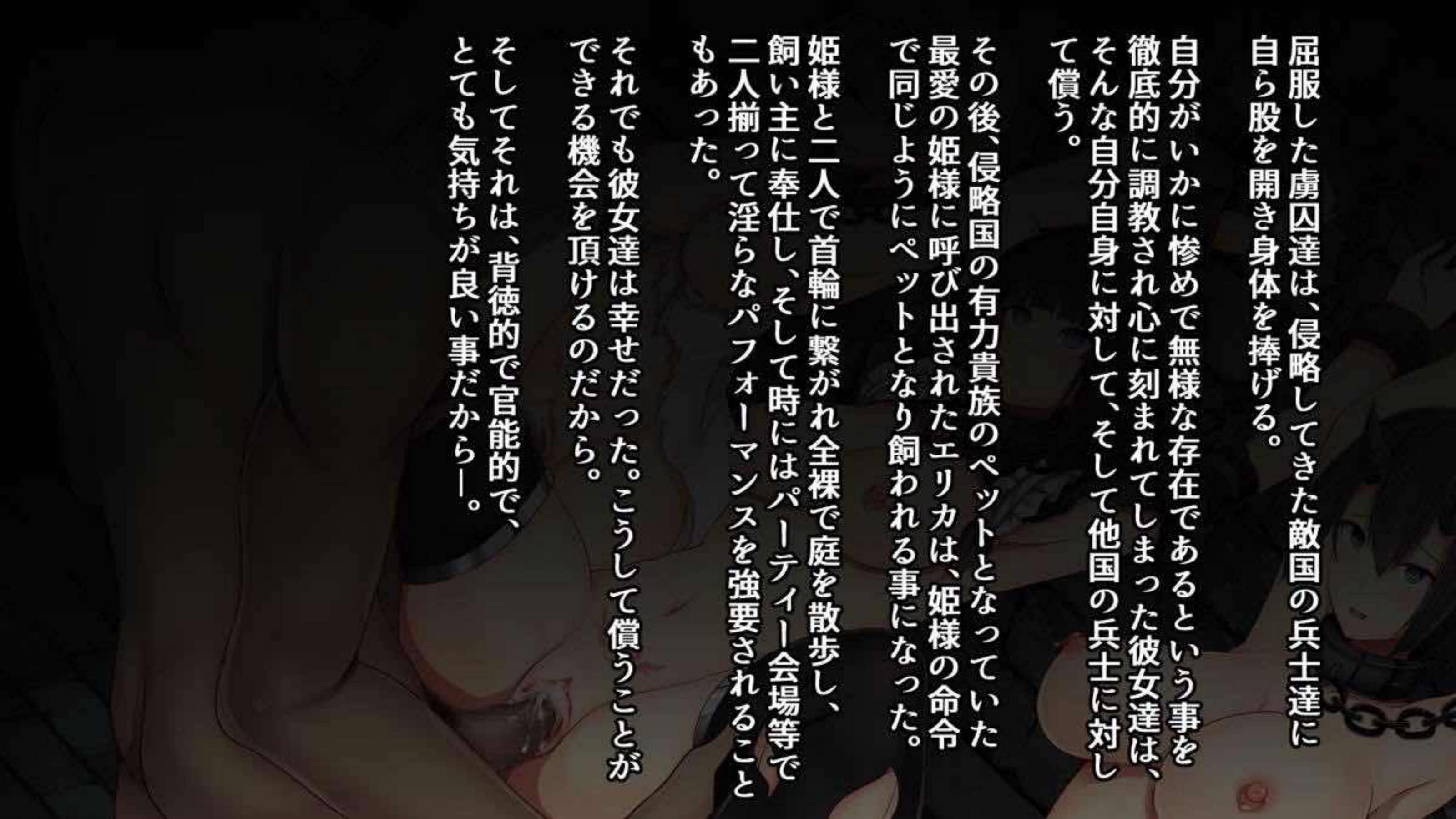
「今までの生意気な態度、申し訳ございませんでしたあ…♡これから心はいれかえてえ…、遅しい兵士様達に今までの無礼な振る舞いの償いをしたと思いますすう…♡」

王国を襲い最愛の姫様を汚した憎い敵国の兵士に対して、媚びた目を向けて謝罪をする彼女。

「くくくつ……ようやく認めたか、そうだが、お前は
惨めでどうしようもない存在なんだ。そんなお前に
償いをやる許可を与えてやる。感謝するんだな。」

「はい……ありがとうございます……♡……
感謝の……極みれすう……!」

そういつて自ら男に顔を近づけ、口付けをする彼女。
その顔には淫靡な笑みすら浮かんでいた。



屈服した虜囚達は、侵略してきた敵国の兵士達に自ら股を開き身体を捧げる。

自分がいかに惨めで無様な存在であるという事を徹底的に調教され心に刻まれてしまった彼女達は、そんな自分自身に対して、そして他国の兵士に対して償う。

その後、侵略国の有力貴族のペットとなっていた最愛の姫様に呼び出されたエリカは、姫様の命令で同じようにペットとなり飼われる事になった。

姫様と二人で首輪に繋がれ全裸で庭を散歩し、飼い主に奉仕し、そして時にはパーティー会場等で二人揃って淫らなパフォーマンスを強要されることもあった。

それでも彼女達は幸せだった。こうして償うことができる機会を頂けるのだから。

そしてそれは、背德的で官能的で、とても気持ちが良い事だからー。

5

敵国の虜囚



カード詳細



名前 いんもん えるふ 淫紋森人・アリサ

クラス エルフ タイプ -



進化前

潜伏

ファンファーレ ダークフェアリーを自分の場に上限まで出す

自分のターン終了時、ダークフェアリーを手札に2枚加える。

自分のターン開始時、自分の場のダークフェアリーを全て破壊して、破壊した数だけ+2/+1する。



進化

私の矢があなたを貫く！…一撃で昇天させてあげるね♡

セット： 妄想カードバックVol.2

カード詳細



名前 せん のう まじゅつ いんもん 洗脳魔術・淫紋

クラス ??? タイプ -



スペル

淫紋森人・アリサ 淫紋騎士・エリカ 淫紋魔師・イザベル

淫紋少女・ルナ 淫紋司祭・イリス 淫紋奴隸・ネクサスの中からランダムで2枚手札に加える。

エンハンス6 ランダムではなくチョイスして手札に加える。

エンハンス10 手札に加えたあと、そのカードのコストを0にする。

それは喪われた禁忌の魔術。この魔術にかけられた者は、その肉体と心を作り変えられる。全ては最愛の【ご主人様】のために。

セット： 妄想カードバックVol.2

カードストーリー【洗脳魔術・淫紋】

神聖なる森を守護する森の守護者として一人前になるべく日々修行をするエルフの少女、彼女の名はアリサ。

その日々の修行を共に過ごしてきた親友が何者かに連れ去られてしまふのを目撃したアリサは、親友を救うべく旅をしていた。

そして今、彼女は旅の道中で何者かに襲撃を受けていた。

魔術師のようだがその身体は貧相で力も感じられない、

恐らくは低位の魔術師であろう襲撃者を前に構えるアリサ。

未熟ながらも守護者として修業をこなしてきた彼女であれば敵ではないだろう、しかもここは彼女の領域である森の中なのだ。

簡単に終わるはずの戦いだっただ。

「私の矢があなたを貫く！」

襲撃者と対峙するアリサ、襲撃された時は親友が連れ去られた時の光景を思い出し身体を固くしたが、襲撃者が低位の魔術師だと分かり身体のを抜く。

「ここで立ち止まってる場合じゃないの、ごめんね、そこをどいて！」

手にした愛用の弓を構え、矢をつがえる。

森は彼女の領域である、外れることはない。

相手は脅威ではない、森の中で命を奪う必要はないと、急所からはずして狙いを定める。

その油断が命取りだった。

「ぎゃあっ!」

突然服がはじけ飛び、胸や恥ずかしい部分を露出してしまおうアリサ。矢は明後目の方向に飛び、彼女自身も突然の事態に対応できず、羞恥心に顔を赤らめ隙を晒してしまおう。

その姿を見て襲撃者である低位の魔術師が醜悪な笑みを浮かべる。そして、隙を見せた彼女に対して何かの魔術を行使した。





「っ！な、なにこれっ！や、やめてっ！」
彼女の頭部に魔力の紋章が輝き、その身体を妖しい光が包んでいく。

魔術師が魔力をこめるとさらに輝きが強くなり、全身を眩いばかりに輝かせた。

「あ、あああああっ！」

自身を包む魔力に対して、彼女は何もする事ができない。

「あ……一体何を……っ！ええっ！？！？」

眩い輝きが収まり、何も起きなかつた事を訝しんだ彼女だったが、ふと自分の身体を見て驚愕の声を上げた。その衣装がいやらしく変化していたのだ。もともと来ていた服は丈が異常に短くなりもはや服としての意味を成しておらず、過激な水着のように際どい衣装なのに、さらに乳首の部分は透けていた。

羞恥心に顔を真っ赤にして大事な部分を手で隠そうとするも、露出した部分を強調するようなやらしいポーズのまま身体が動かない事に気づく。

狼狽する彼女の姿に下卑た笑みを浮かべた魔術師は、彼女に向かってさらに魔力をこめた。すると、彼女の下腹部に先ほどと同じ淫紋が浮かび上がった。

「あ……ふあああああ……♡……!!……!!……!!」

それと同時に彼女に、下腹部から全身に広がっていくように快感の波が襲った。最初は甘い疼きだったそれが徐々に強くなり、彼女はびくびくと身体を痙攣させる。

「やっ♡あん♡もう、やめ♡♡いやあああ♡♡」

身体を触られてもいないのに、全身に走る快楽に翻弄される彼女。ストリップのように身体をくねらせ、嬌声を上げる。

「はあっ♡はあっ♡あはっ♡」

そして光が収まったあと、彼女の身体は変化していた。

絶頂の余韻で火照った身体は艶めかしく、その顔は艶やかな笑みを浮かべている。健康的に締まった下腹部には淫紋が浮かんでいた。

その姿を見た魔術師は歓喜と好色な顔を浮かべ、彼女に近づいた。

「あ♡ご主人様♡さきほどの♡無礼、大変失礼致しましたあ…♡」

先ほどまで敵だった格下の相手を前にして謝罪をし、ひれ伏す彼女。その顔は情欲にまみれ、媚びに媚びた視線を魔術師に対して向ける。それはまるで、お仕置きを待っているペットのような姿だった。

彼女は洗脳され、身体をいやらしく作り変えられてしまったのだ。魔術師の行使した「洗脳魔術」によって。

「えへっ、獲物はっけ〜ん♡」

彼女が淫紋奴隷に堕ちてから幾ばくかの時が経った。

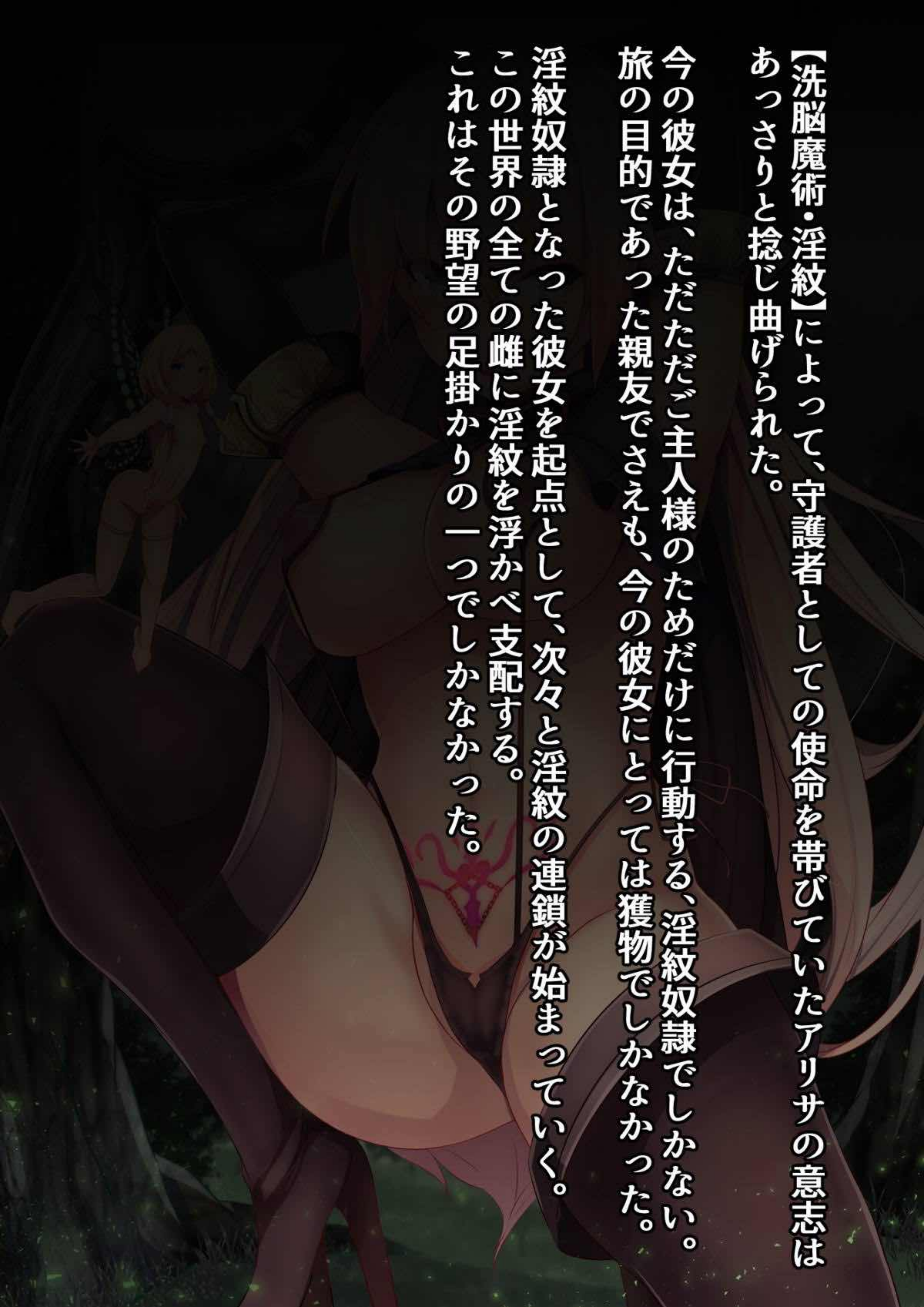
森の守護者である彼女が堕ちたことによって、連鎖的に広がり、今では森全体が「ご主人様」である魔術師の支配下となっていた。

ご主人様に奉仕し、命令があれば仲間のフェアリーと共に獲物を捕獲する。その獲物はご主人様によって調教され、新たな奴隷となる。

そしてまた森に迷い込んだ哀れな女が捕獲される。どこかの国に使える従者であるうメイド服のような衣装に身をつつみ刀を持った女だった。

「これでまたご主人様に褒めてもらえるよ、えへへ……えっちなご褒美い……♡、でもその前にい……、ちよっただけ味見……♡」

興奮で股を濡らしながら淫靡な笑みを浮かべたアリサは、倒れた女に近づいていった。



【洗脳魔術・淫紋】によって、守護者としての使命を帯びていたアリサの意志はあつさりと捻じ曲げられた。

今の彼女は、ただただご主人様のためだけに行動する、淫紋奴隷でしかない。旅の目的であつた親友でさえも、今の彼女にとっては獲物でしかなかった。

淫紋奴隷となつた彼女を起点として、次々と淫紋の連鎖が始まっていく。

この世界の全ての雌に淫紋を浮かべ支配する。

これはその野望の足掛かりの一つでしかなかった。

6

淫紋森人・アリサ



5

2

カード詳細

5

奴隷市場



名前 どれい いちば 奴隷市場

クラス ロイヤル

タイプ -



アミュレット

カウントダウン 2

自分のターン開始時、相手と自分のフォロワーをランダムで1体売り飛ばす。
対象がコスト1~4の場合カードを1枚、コスト5~10の場合カードを2枚引く

エンハンス 8 自分のターン開始時に、相手の場にフォロワーがいなければ
相手リーダーを売り飛ばし、このバトルに勝利するを持つ。

奴隷に拒む権利はない。特に従順な奴隷とするため苛烈な調教を受けた者
には、拒み抵抗しようとする意志すら存在しない。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【奴隷市場】

王国の中でも治安が良くない地域であるスラム街にある奴隷市場。

そこでは奴隷商人や盗賊崩れが集まり、人身売買が行われ賑わっていた。

貴族や身分の高い者も利用するため、黙認されるような形で存在するこの場所では、労力のための屈強な男奴隷や、珍しい生物など多様な取り引きが行われている。

しかし、この場所で特に人気があるのが、見目麗しい女達であられもない姿で展示され売り買いされる性奴隷市場だった。

また今日も、とある奴隷商人によって女達が持ち込まれ、賑わっていた。

特にこの奴隷商人は、血筋や能力・希少性と誰もが欲しがるとびぬけた容姿を持つ女達を売りに出すことで評判だった。

そして市場のお立ち台に並んだ女達は評判に違わず美しく可愛らしい女達ばかりだった。

それを見て奴隷を買いに来た客や見物人は色めき立ち、いつも以上の盛り上がりを見せる。

人を商品として物として扱う場所、それが奴隷市場だった。



奴隷商人に連れられ、商品である奴隷達が並び立つ。
首輪のみで一糸まとわず全てを晒した彼女達は
どれも若く、他に売られている女奴隷達が霞むほど
見目麗しい容姿をしており、その下腹部には性奴隷
の証である焼き印が刻まれていた。

大人しく並んだ奴隷達の姿を見て満足気な顔を浮か
た奴隷商人は言う。

「お集り頂きありがとうございます。さあお前達、
お客様に自己紹介をするんだ」

奴隷商人の言葉に、美しい黒髪を持つ女性が口を開いた。

「エリカといます…。王国の姫様お付きの護衛兼お世話係をしておりました。任務のために街の外に出ていた時に、暴漢に襲われている女性を助けようとして振り返りに合い、一緒にお、おかさされ、た後に奴隷商人様に引き取られました…。その後、奴隷商人様に性奴隷として調教して頂き、い、いまではご主人様の許しがあれば毎日何回もオ、オナニーをしましてしまう淫乱メイドです…。」



黒髪の女性の恥ずかしい告白が終わると次は豊満な
身体を持つ、紫の髪の女性が口を開く。

「イ、イザベル、です。宮廷魔術師を務めていました…。
私の存在を疎ましく思っていた同僚の魔術師の
罠に嵌り、奴隷商人様に引き取られました…。
奴隷商人…様に性奴隷として調教して頂き、
る、露出して見られることに興奮する変態魔術師
にして頂きました…。い、今も興奮してはしたなく
おまんこを濡らしています…。」



その後も、エルフの少女や金髪の司祭、お団子髪の幼い少女等並んだ女達が恥ずかしい自己紹介をしていく。

全員の告白が終わると奴隷商人と客で交渉が始まる。そして交渉が終わったのか、イザベルの前にフードを深くかぶった陰湿そうな男が立った。

その男はイザベルの同僚の魔術師だった。イザベルの才能と優秀さを妬んだこの男は彼女を罠に嵌め、懇意にしている奴隷商人に引き取らせた。そして性奴隷として調教されたイザベルを買いにきたのだ。イザベルは男の顔を見て驚愕するも何も言う事ができない。奴隷に拒む権利はないからだ。

彼女の乳首に売却済であり所有物である事の証である銀色に輝く乳首ピアスがつけられる。



そして奴隷商人が持ち込んだ全ての奴隷たちの取引
が終わった。
並んだ見目麗しい女達の乳首には証である乳首ピア
スが輝き光を反射している。

その後、彼女達はそれぞれの「ご主人様」に何処かに
連れられて行った。



彼女達が売られて幾ばくかの時が過ぎた。
そして再び奴隷市場に彼女達の姿があった。

性奴隷としてご主人様に飽きられた彼女達は奴隷商人に再び引き取られた。
元のご主人様になつぷり可愛がられたであろうその身体は、お腹はぼっこりと膨らみ大きく育った胸からは母乳が染み出していた。
他人の子を孕んではいるが、母乳を出す奴隷は一定の価値がある。

そして彼女達は新たなご主人様に売られていくのだった！。

5

奴隸市場



カード詳細



名前 ハーレムのメイド

クラス ロイヤル

タイプ 王



アミュレット

自分の場にハーレムの王がある場合、このカードのコストを0にする。

自分のターン終了時、このバトル中に破壊した相手の性別♀フォロワーの数（ハーレムに加えた数）だけ自分のリーダーを回復する。

王を喜ばせるために用意された特注の衣装を自ら着て、身体を捧げる女達。よりどりみどりの女達を、あなたは好きにすることができるのだ。

セット： 妄想カードバックVol.2

カード詳細



名前 ハーレムの^{おう}王

クラス ロイヤル

タイプ 王



アミュレット

カウントダウン 10

自分の場にフォロワーが出るたび、それを+0/+1して、守護を持つ。

相手の場にフォロワーが出るたび、それを+2/+0する。

ラストワード このバトルに勝利し、相手リーダーのコントロールを得る。

性別が♀であった場合ハーレムに加える。

豪華絢爛な女の園に君臨する一人の王。その姿を見た者は、どのような女傑もひざまずきその身体を捧げた。

セット： 妄想カードバックVol.1

カードストーリー【ハーレムのメイド】

豪華絢爛な室内に君臨する一人の男。

どこからともなく現れ、圧倒的なカリスマでたまたま外を歩いていたら村娘から始まり、街一番の美女、領主の娘、有力貴族の女……と女達を次から次へと魅了して地位を築いていった。

雑多な事は女達が喜んで全てやってくれる。

自分はただひたすら魅力的な女達をモノにしていけばいい。

男の欲望はとどまることをしらず、女を魅了するその力で一国の王まで上り詰めると、新たな女達を求めて侵攻をした。

その道中で、

ある目的のために旅をしていたエルフの少女を

魅了し旅の目的などどうでもよくなるまで可愛がり離れられなくなるほど依存させた。

密命を受けて、行動していた美しい黒髪のメイド騎士を魅了し、メイド騎士が忠誠をささげる姫と一緒に可愛がった。

婚約者を失くした豊満な身体をもつ美しい魔術師を魅了し、快感で狂ってしまふほど抱き続け、ついに

婚約者の事よりも王との情事を優先させ堕とした。ある街の金髪の司祭を魅了し、王こそが神でありもたらされる快楽を信仰の対象とさせ、信徒の女達を捧げさせた。

幽霊屋敷に住む一人のネクロマンサーの少女を魅了し、お友達として愛情を与え続け、今ではべつたりと離れないようになった。

こうして数々の女傑達を手に入れ、王のハーレムは大きくなっていった。

そして王はある趣向をハーレムにとり入れた。

「はあっ♡ああん♡ご主人様あ♡」

室内に甘い嬌声が響く。ベッドにただ横になっている王に対して、各々自らの身体を使って奉仕する女達。

広めの室内には数十人は優に超えるほどの若く美しく可愛らしい女達がいた。いずれもハーレムの中から王が直接選んだお気に入りのお女達だ。

恥部を全て晒した特注の衣装を着こみ、奉仕をする彼女達の表情はどれも王に対する忠誠と愛情で発情しきっており、身体を捧げる事ができる喜びに溢れている。

直接奉仕には加わらず、部屋に待機している女達も、羨ましそうに見つめる少女やクールな顔を保ちつつも乳首をしっかりと勃たせている女など様々な反応を見せている。

「あっ♡ごじゅじんさまのおちんぽきもちよす

ぎて♡腰がかってに動いちゃうの♡」

「アリス、自分だけ気持ちよくなっちゃってしまっただけは駄目よ。支えてあげるから最初はやさしくゆっくりと動いて…」

「とてもたくましい胸板♡♡はあ♡♡」


「ごじゅじんさま♡お顔、失礼します、あん♡」

身体はしっかり出来上がっており、ぷっくりと膨れた乳首が自己主張する女達だが、各々が責務を果たそうと奉仕する。

王のモノを啜えこんでいたエルラの膣内にそのまま
射精され、出して頂いたという事実と快楽に
歓喜の声をあげ全身を震わせるエルラの少女。

「ああああん♡♡しゅじんさまの♡きたあ♡♡」





さらに気持ちよくなってもらおうと腰をゆっくり
上下させ、膣内に力をいれて搾り始める。
快感で蕩けたエルフの少女にあてられたのか、
周りを囲む女達の表情も情欲に溺れた雌の顔に
変わっていく。

「はぁ♡ふぁぁぁ♡きもちいい♡♡あんっ♡♡」



同じように可愛がってもらえる自分を想像したのか
軽く達し、母乳を次々と噴出していく女達。
甘く濃厚なミルクの匂いがあたりに充滿していく。
匂いにあてられて我慢ができなくなったのか、
オナニーをしている女もいた。

「あ♡想像しただけで、イっちょちや…ああんっ♡」

「ご主人様♡ききょうもたっぷり♡ほろり♡
いただきます♡」

無論、王の射精は一度では終わらない。

この室内のメイド全員に中出ししたとしても、その
精力は衰えない。

それを知っているからこそ、メイド達はその顔を
蕩けさせる。

ハーレムのメイド達による王への奉仕は、
まだ始まったばかりだった。



カードストーリー【ハーレムのメイド】

ハーレムの王のハーレム道に終わりはない。
この人物はいつたい誰なのかと噂されるが
正体をはっきり掴んだ者はいない。

まるでこの世界を操作しているかのよう
ハーレムの王基準で物事は進んでいく。

そしてその圧倒的カリスマ性に女達は惹かれ、
ハーレムが拡大していく。

神すらも魅了し足元にひれ伏させ女遊びに浸る
王様。

もしこの世界をゲームのように遊ぶプレイヤーが
召喚されたのだとすれば、

ハーレムを築くことなど、簡単な事なのかもしれ
ない。

10

ハーレムの王



カード詳細

5

降伏勧告



私は負け犬です



名前 とうふく かんごく
降伏勧告

クラス ロイヤル

タイプ -

スペル

このバトル中、自分のターン終了時に相手の手札に降伏を2枚加える。

【降伏】コスト0 スペル

・このバトルに敗北する。

降伏すれば命だけは助けてやる。…相応の誠意は見せてもらうがな。

——敵国の将。

セット： 妄想カードパックVol.2





私は負け犬です

私は負け犬です

私は負け犬です

The image depicts three anime-style female characters kneeling on a cobblestone surface. They are dressed in light-colored, possibly brown or tan, bikini-style outfits. Each character has a dark rectangular sign hanging from their necks. The sign on the left contains the Japanese text '私は負け犬です' (I am a loser dog). The sign in the middle also contains '私は負け犬です'. The sign on the right contains '私は負け犬です'. The characters have different hair colors: the one on the left has long brown hair, the one in the middle has short black hair, and the one on the right has long light blue hair. All three characters have their eyes closed and their mouths slightly open, as if they are in a state of submission or defeat. The background is a simple grey stone wall.

私は負け犬です

私は負け犬です

私は負け犬です

The image depicts three anime-style female characters kneeling on a cobblestone floor, bowing their heads and chests. Each character has a dark rectangular sign with white Japanese text pinned to their chest. The character on the left has long, straight brown hair and pointed ears. The character in the center has short, straight black hair. The character on the right has long, straight light blue hair and pointed ears. All three characters have their eyes closed and mouths slightly open in a pained or distressed expression. The background is a grey stone wall.

私は負け犬です

私は負け犬です

私は負け犬です

5

降伏勧告

私は負け犬です



カード詳細

7

淫紋騎士・エリカ



5

5



名前 いんもん きし 淫紋騎士・エリカ

クラス ロイヤル

タイプ -



進化

進化前

突進 必殺

ファンファーレ 淫紋騎士団を場の上限まで出す。

このバトル中、淫紋付きのフォロワーが場に出たとき**疾走**を持つ。

ここで死んで頂きます。…絶対の忠誠を誓った私の主のために…♡

セット： 妄想カードパックVol.2

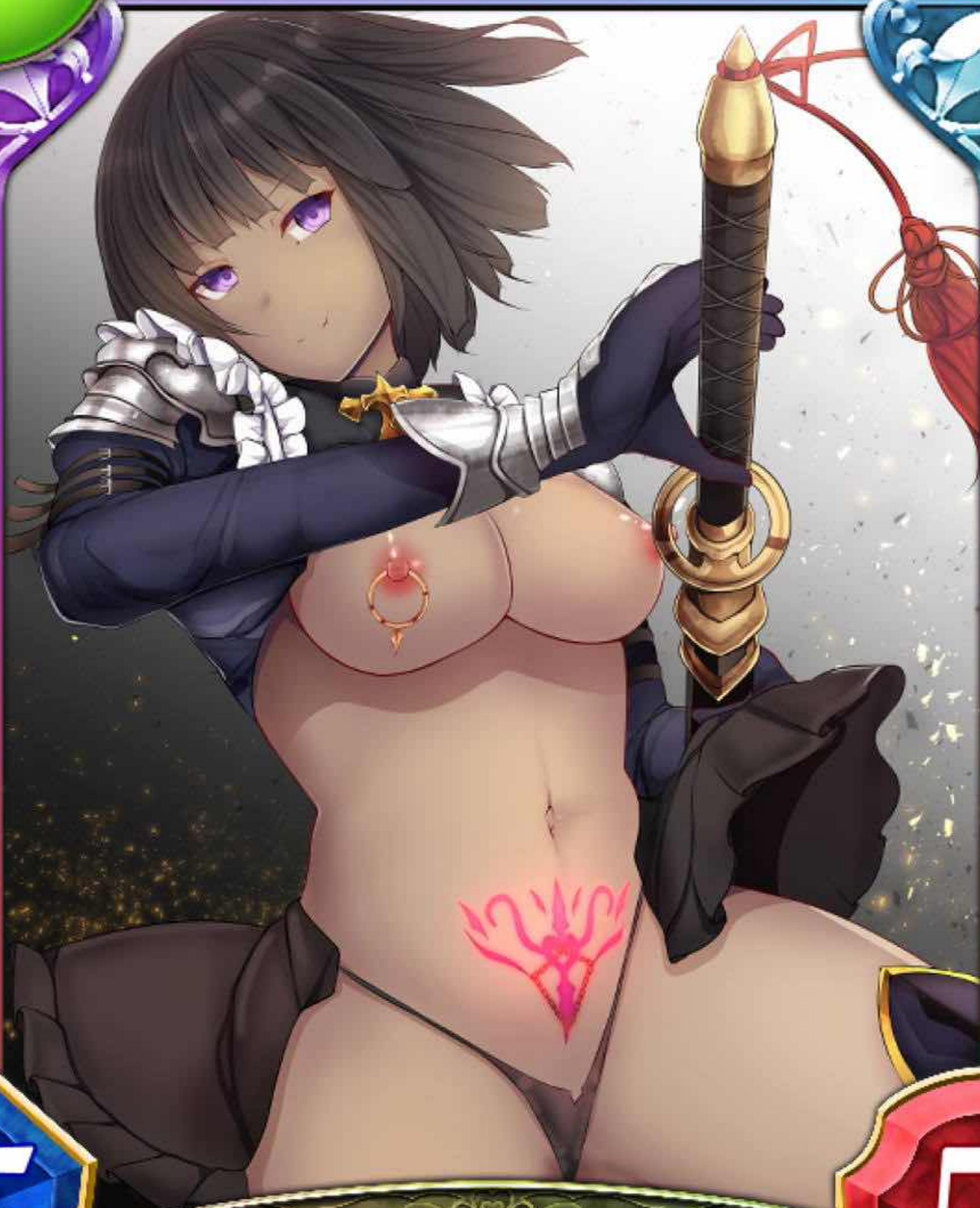






7

淫紋騎士・エリカ



5

5

カード詳細

3

人体改造装置



名前 じんたい かいぞう そうち 人体改造装置

クラス ネメシス

タイプ -

アミュレット

カウントダウン 1

ファンファーレ 相手の性別♀フォロワー1体を次のターン行動不能にする。
フォロワーがいなければ、相手のリーダーを次のターン行動不能にする。

【全身性感帯】 **【超乳化】** **【感度倍増】** **【強制妊娠+成長促進】**のうち、
ランダムで1つ与える。対象がリーダーの場合、立ち絵が変化する。

泣き叫ぼうが懇願しようが、無機質なこの機械は無慈悲に与えられた役目を
こなす。そして改造された身体はもう二度と戻らない。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【人体改造装置】

それは人体を改造するためだけに作られた巨大な装置。


この装置を作ったとある研究者は、人の身体を改造して弄ぶ事を研究として、そして何より自分の欲望を満たすために、捕まえた女性達に対して人体実験を繰り返していた。

広い空間に複数の女性達が装置に拘束されている。

研究者は女性達を見回すと、最近手に入れた貴重なサンプルに近づいていった。




寒気がするほどの神秘的なオーラを纏った女性があられもない姿を晒し、拘束されていた。人外の雰囲気すら感じる美しい女性だが、他の実験体と同じく改造の魔の手に既に掛かってしまったのか、胸のサイズが細身の身体に對しして不自然なほど大きくなっていた。




装置の起動音が響き、無数のケーブルが彼女の身体に取り付けられる。それと同時に彼女の股に歯車のような装置が出現し、ぐちゅぐちゅと秘部に擦りつけ始めた。

そんな状況にあっても超然とした表情を崩さない彼女。




やがて歯車がゆっくりと回転を始めた。
突起部分が彼女の股を擦っていく。段々と速度が上がっていきそれに、
表情は変わらないものの、その身体は汗ばみ愛液を垂らし始めていた。



歯車の回転が最高速に達した瞬間に限界がきたのか、先ほどのまでの超然とした表情が無様に歪み、愛液を激しく潮吹き、身体をびくびくと跳ねさせ絶頂する。

絶頂の最中でも機械は遠慮などなく、最高速で回転し続けた。

ついに、いつもと違う反応を引き出すことに成功した研究者は実験の成功に笑みを浮かべた。そして新たな実験の準備に取り掛かるのだった。



しばらくして変わり果てた彼女の姿がそこにあつた。
乳は肥大化し、その腹は妊娠し大きく膨らみ、全身性感帯にされた上に感度倍増
の改造をうけたその身体は少しの風に触れるだけで絶頂を引き起こす。

止まらない絶頂に涎と愛液を垂らし、白目を向くその姿はかつての超然とした
表情の面影はなかった。

欲望を満たすための実態実験に終わりはないー。



3

人体改造装置



カード詳細

2

ゴブリンの家畜比べ



名前 ゴブリンの家畜^{かちく}_{くら}比べ

クラス ニュートラル

タイプ -

スペル

・淫乱に開発された家畜

・従順に調教された家畜

チョイスしたカード1体を出す。

エンハンス5 チョイスではなく、カード2体を出す。

同じ家畜でも調教したゴブリンによって違ってくるらしい。

ゴブリンにも性的嗜好があるということか？ ——家畜研究家。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【孕み姫・ヴァンパイ】

ゴブリンに捕まった者に明るい未来はない。
それが女ならばなおさらだった。

ゴブリンに捕まり、巢に持ち帰られた女の末路は、
家畜として弄ばれながら乳を搾られるか、
孕み袋としてゴブリンの子を産み続けるか、
もしくはその両方かだった。

薄暗い洞窟に複数の足音と、這って歩いているような
擦れた音が響く。

2人の女性と2つのゴブリンのグループだった。
小柄なゴブリン達に鎖を握られ、犬のように連れられ
ている少女の名前はヴァンパイ。

体格が大きくデブのゴブリン達に鎖を握られ、
その豊満な身体を擦りながら豚のように這っている
女性の名前はイザベル。

かたや誇り高き血族の姫、かたや優秀な宮廷魔術師
として君臨していた彼女達だったが、孕み袋として
大きくなった腹やゴブリン達に家畜として扱われる
その様は、かつての威厳をまったく感じさせない。

普段あまり関わることのない別グループのゴブリン
達だったが、ただの遊びの一環でお互いのお気に入り
の家畜を比べてみる事になったのだ。

そして、お互いの家畜部屋から連れ出された彼女達。
いつもとは少しだけ違う、彼女の日常がしまった
のだった――。

「うっ……は、はい……」

鎖を握った小柄なゴブリンに強く引っ張られ、
洞窟の壁を背にして、脚を大きく開く服従のポーズ
をするヴァンパイ。良く舐けられたその姿に関心するよう
な仕草を見せるデブのゴ布林達。






彼女の正面に立ったゴブリンが彼女の乳首についたピアスを強く引つ張る。

「ひっ……ごめんなさいっ……ごめんなさいっ……」
すぐさま謝罪をする彼女。
すると彼女の秘部は濡れ、愛液が垂れ始めていた。
酷いことをされないように、お仕置きをされないように、ゴブリンを満足させる身体に変わってしまったっていうのだ。

「ひ、ぐっ……あ、あああ……」

もう我慢できないとばかりにとびついたデブゴブリンが彼女の膣内に挿入する。いつもより大きいソレに呻き声をあげる彼女。孕んでいようが関係無しに叩きつけられるが、快感を感じるようになってしまった身体は甘い声が漏れ出てしまう。





一方、イザベルの方もゴブリン達に囲まれていた。ヴァンパイと同じく大きく膨らんだお腹だが、汚物や泥で汚れ全裸で四つん這いのままひれ伏す姿は、より乱暴に扱われている事を感じさせた。彼女は身体を震わせながら、ただひたすらにゴブリンに対してへりくだる。その顔にかつての強い意志を感じさせる面影はまったく残っていない。

鎖を握ったデブゴブリンがどうだとばかりにみせつける。

その姿はゴブリンの被虐心を満たしたのか小柄なゴブリン達は笑みを浮かべた。

「あ、ああっ、ううっ……」

小柄なゴブリンのグループの中でも腹の出っ張ったゴブリンが、我先にと彼女の膣内に挿入する。いつもより少し小さいそれに、なにか物足りないような切なそうな声をあげる彼女。そして何匹ものゴブリンが彼女に群がっていく。





ヴァンパイイの方も盛り上がりを見せていた。
「じゅぷっ、じゅるるっ、じゅぷっ、じゅぷうっ!!」
寝そべるデブゴブリンの上で自ら腰を振りながら、
正面に立つデブゴブリンのモノをしゃぶる。
いつもより大きく、回いっぱいに頬張ったソレに
必死に奉仕する彼女。



一方イザベルは完全に出来上がっていた。

「あんっ♡はあん♡おちんぼ、きもちいいですうっ♡」
小柄なゴブリン達のモノでは物足りず、かといって
飼い主であるデブゴブリン達に強くできる事もできな
い彼女は悶々としていたが、成人男性と比べても
かなりの大きさを持つデブゴブリンのモノが挿入
されると一発で堕ち乱れてしまった。
下品に舌を出し、嬌声をあげる彼女。



お互いの自慢の家畜の優劣を決める遊びは、なかなか
決着がつかず。

その間彼女達は犯され続けた。



「ふひい……うげえ……ほっ……もう……ゆるひてえ……」
いつもより大きく、そして出す量も段違いに多い
デブゴブリン達の相手を長時間した彼女は消耗
しきっていた。
あごは疲れ、必死に動かした腰と脚もふるふると
震えて、ガニ股と内股を高速で繰り返している。

「はひい♡はふう♡おちんぽお…♡はふう♡」
一方イザベルは快感の余韻に浸っていた。
いつもより倍の数を相手にした彼女だったが、
その顔はだらしなく弛緩して涎を垂らしていた。

「んっ♡ちゅっ♡れるお…♡」

自らゴブリンのモノに対してお掃除フェラをする
彼女だった。



ゴ布林達のお互いの自慢の家畜を持ち寄っての家畜比べ。

結局どちらの家畜が優れているか決着がつかず、散々お互いの家畜を犯して解散となった。

別グループであるデブゴ布林と小柄のゴ布林達はお互いの家畜を連れて自分たちの巣へと帰っていく。その顔は皆一様に満足した顔を浮かべていた。

グループや住処が違うゴ布林達が集まって自分たちの自慢の家畜を見せ合い味わいあう、ゴ布林の家畜の比べあい。

これが後に多数の部族を巻き込んで、家畜を比べあう祭りとしてゴ布林達の間を広まっていくー。

2

ゴブリンの家畜比べ



カード詳細



名前 ゴブリンマウントルナ

クラス ニュートラル

タイプ -



進化前

守護

ファンファーレ フォロワー全てに2ダメージ。

ターン終了時、母乳を出す。

ラストワード 孕み袋 ゴブリンの家畜を手札に加える



進化

さぁ歩け！歩け！、ピシバシやっちゃうんだヨ！！！！。

こいつちいさくてのりやすいんだヨ！。

セット： 妄想カードパックVol.2

カードストーリー【ゴブリンマウントルナ】

ゴブリンに捕まった者に明るい未来はない。
それが女ならばなおさらだった。

ゴブリンに捕まり、巢に持ち帰られた女の末路は、
家畜として弄ばれながら乳を搾られるか、
孕み袋としてゴブリンの子を産み続けるか、
もしくはその両方だった。

たとえそれが幼い少女だとしても例外ではなかつた。

洞窟の中でも広めの空間にゴブリンの子供たちの
笑い声が響く。

その中心に、少女はいた。



ゴブリンの子供達に囲まれたルナ。
家畜小屋から連れ出された彼女の身体は孕み袋
としてすっかり孕んでいた。幼い身体にピアスを
つけお腹を大きく膨らませたその姿はギャツプのよ
うな魅力を感じさせた。

「や、やめてっ、むぐぐ」

馬乗りになされ、猿轡を噛まされるルナ。

「んんっ、んんううっ！」

今にも泣き出しそうな彼女は乗られたままゴブリン達の様子を伺う。家畜としてさんざん躡けられた彼女に抵抗などできるわけがない。

「ん…っ？」

体勢の関係で無防備に尻を差し出す彼女の背後に気配を感じ、振り向くこととする。



「んんうっ！？！？！？！ひゅむっ！、んぐうっ！ひぐっ！」

背後に立ったゴ布林が、無防備に晒された彼女の小柄なお尻に向かって、鞭を振り下ろす。大人ゴ布林が使っていた家畜調教用の鞭を黙って持ってきたゴ布林達は加減など知らず、遠慮なく叩きつける。

パチーン！バチーン！

小気味良い音が響き、叩かれる度に彼女の尻が大きく揺れた。

そんな彼女の反応を面白がり、何度も何度も叩くゴブリンの子供達。

所詮彼らにとっではただの楽しい遊びでしかない。



「ひんひんひんひん」

やがて彼女の尻は痛々しいほど赤く腫れあがって
いた。

「んむううううー!」

馬乗りになって、尻を叩いて、嘲笑って、存分に玩具を虐めて楽しんだ子供たちは、今度は最近覚えた気持ちいい事をする。

彼女の幼くもしつかり開発された腔に挿入されるゴブリンのモノ。挿入された瞬間に彼女の意思に反して愛液が溢れ出す。

「んひゅっ!んひゅっ!んひゅうっ!んひゅっ!」

ピストンと同時に声をあげる彼女。さらに、馬乗りになったゴブリンが面白がって真っ赤になったお尻を叩き始める。

「んひゅ……んひゅ……ひゅ……」

どれくらいの間が経過したのかは分からない。
彼女の身体は白濁とした液と汚物で汚れ、その瞳
は憔悴しきつっており意識が残っているかすら
あやしい。

ゴブリンの子供が尻を叩いてもビクツと身体を揺ら
すだけで、ほとんど反応しなくなっていた。

やがて子供たちは遊び飽きたのか彼女をその場に
放置したままどこかに行ってしまう。

そしてしばらくした後、家畜がいなくなっている事
に気づいた大人ゴブリンによって連れ戻されたの
だった。

子供たちは時に残酷ですらある。

ひたすら無邪気に楽しいからと玩具を弄ぶ。

そんな子供達のお気に入りになってしまった少女ルナ。

ある日、大人ゴブリンから決して出てはダメだと言われていた洞窟の外に、子供ゴブリン達は家畜ルナを連れて飛び出した。

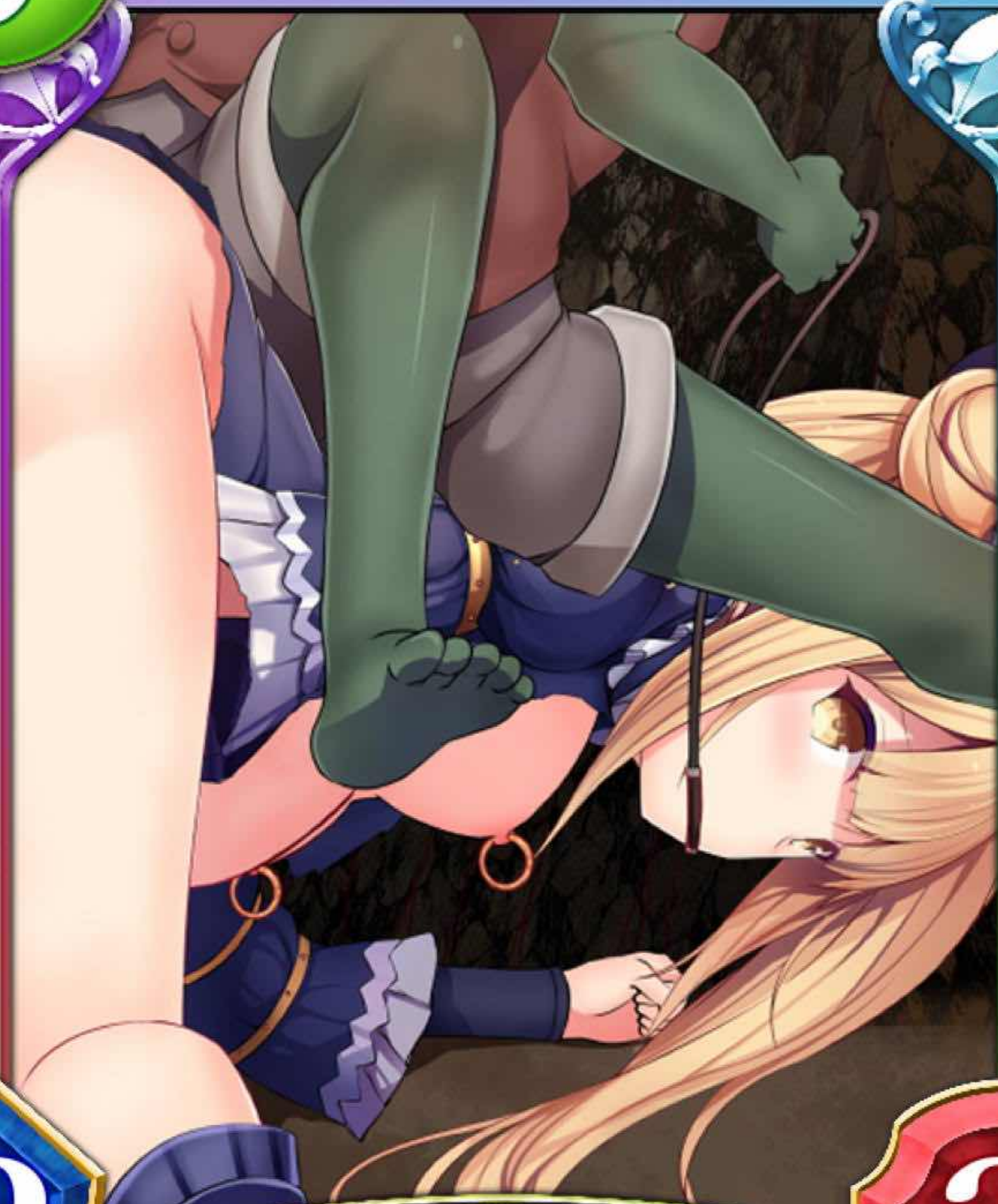
そこで多数の人間の男達に遭遇し、ゴブリン達は倒され、彼女は救出された。

それからしばらくして、

【奴隷市場】に彼女に似た姿の可愛らしい少女が商品として並んでおり、少女趣味の貴族に買われていったという噂が商人の間で囁かれていたというー。

5

ゴブリンマウントルナ



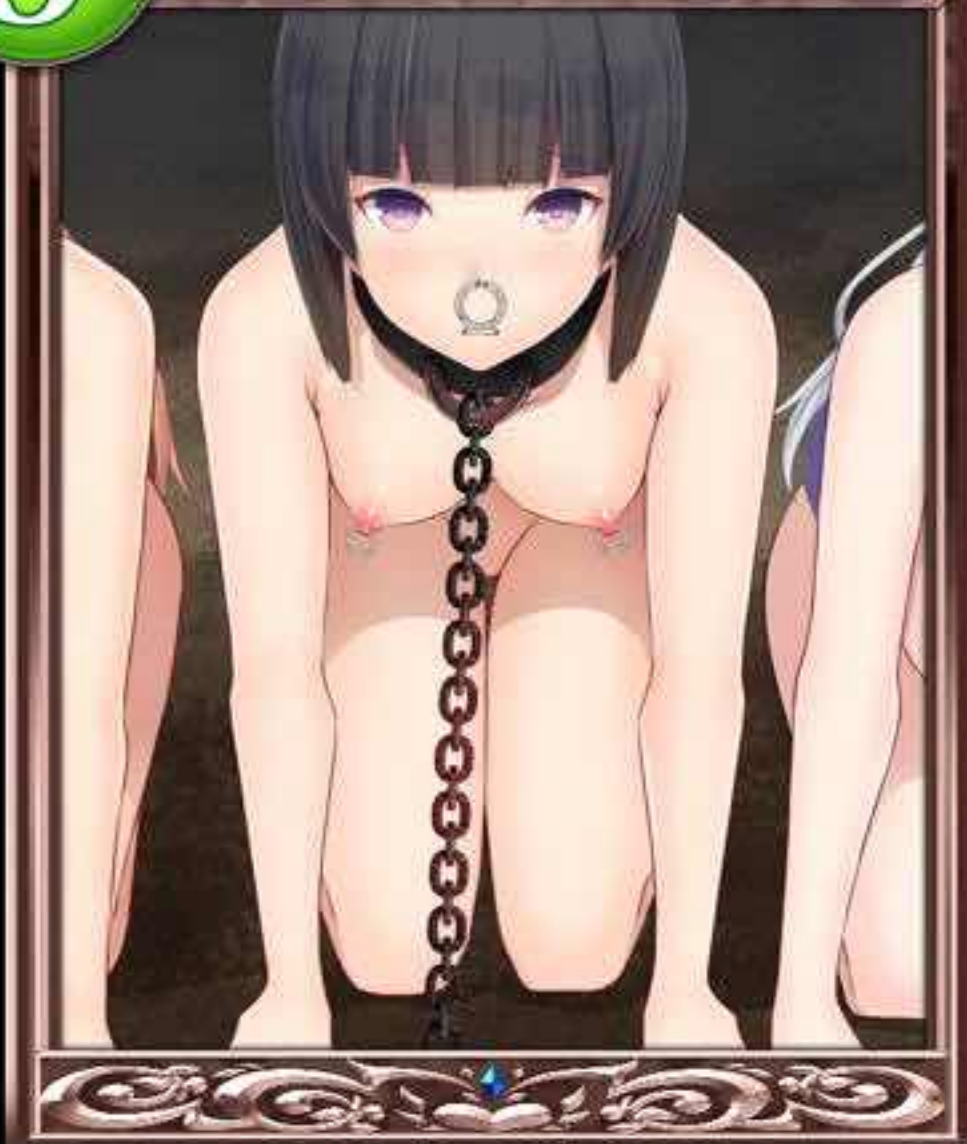
2

3

カード詳細

5

ゴブリンの家畜達



名前 かちくたち ゴブリンの家畜達

クラス ニュートラル タイプ -

スペル

ゴブリンの家畜 を自分の場の上限まで出す。

さあ、排泄の時間だ。

セット： 妄想カードパックVol.2



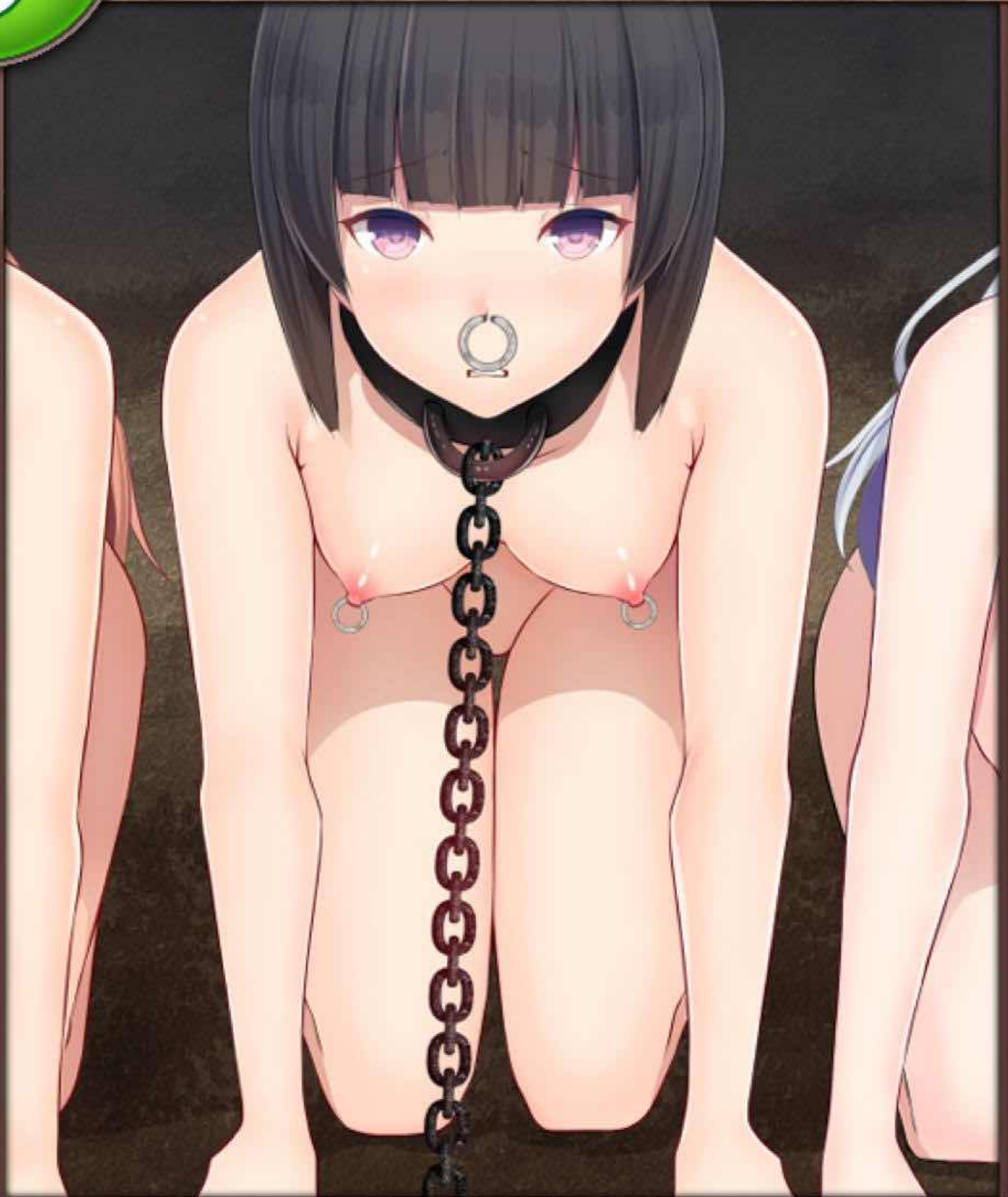






5

ゴブリンの家畜達



カード詳細

5

オークの孕み袋



名前 オークの^{はら}孕み^{ぶくろ}袋

クラス ニュートラル

タイプ -

アミュレット

カウントダウン 2

自分のターン終了時 母乳 を出す。

ラストワード オークを出産する。

「くっ…殺せ…！」一囚われた女騎士。

セット： 妄想カードパックVol.2







5

オークの孕み袋

